

令和7年度使用

義務教育諸学校（中学校）の教科用図書
（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）
研究資料

令和6年6月

岡山県教育委員会

目 次

教	科	種	目	
1	国 語	国 語	-----	1
2	国 語	書 写	-----	7
3	社 会	地理的分野	-----	13
4	社 会	歴史的分野	-----	19
5	社 会	公民的分野	-----	29
6	社 会	地 図	-----	37
7	数 学	数 学	-----	41
8	理 科	理 科	-----	49
9	音 楽	一 般	-----	55
10	音 楽	器 楽 合 奏	-----	59
11	美 術	美 術	-----	63
12	保 健 体 育	保 健 体 育	-----	69
13	技 術 ・ 家 庭	技 術 分 野	-----	75
14	技 術 ・ 家 庭	家 庭 分 野	-----	81
15	外 国 語	英 語	-----	87
16	道 徳	道 徳	-----	95

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

1

教科 国語

種目 国語

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい国語 1	1	B5	306
		新編 新しい国語 2	2	B5	310
		新編 新しい国語 3	3	B5	322
15	三省堂	現代の国語 1	1	B5	366
		現代の国語 2	2	B5	366
		現代の国語 3	3	B5	366
17	教出	伝え合う言葉 中学国語 1	1	B5	357
		伝え合う言葉 中学国語 2	2	B5	373
		伝え合う言葉 中学国語 3	3	B5	357
38	光村	国語 1	1	B5	344
		国語 2	2	B5	344
		国語 3	3	B5	340

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい国語
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 国語で正確に理解し適切に表現することに向けて、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 国語の知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、及び現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の伝統的な言語文化や言葉の由来・変化等について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際理解や協調に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 巻頭の「領域別教材一覧」では、単元ごとの学習内容と身に付けたい言葉の力が示されている。巻末の「言葉の力」一覧では、領域・学年ごとに系統的に身に付けたい言葉の力が示されている。また資料編の「思考のヒント」では、基本的な思考の方法が示されている。</p> <p>② 巻頭には、学年ごとに学習のテーマが示されている。「てびき」では、目標や振り返りまでの学習活動が、単元ごとに示されるとともに、学習のテーマとの関連が記載されている。巻末の資料の冒頭にはテーマを振り返り、身に付けた力を生かし思考・判断・表現するための視点が示されている。</p> <p>③ 「学びを支える言葉の力」では、詳しい解説や練習問題などが掲載されている。資料編では、本編と関連する発展的な教材や、本編を学習する際に参考となる資料が掲載されている。また、第3学年では「発展」として「古典の文法」の説明が示されている。</p> <p>④ 現代社会に対応した「九つのテーマ」が設定され、各教材の終末に「未来」として関連するテーマが示されている。「未来への扉」の単元では、テーマに沿った複数の文章や資料を関連付けながら読み、考えを深める活動が紹介されている。全学年で「情報と論理の学び」の教材が取り上げられている。</p> <p>⑤ 第1学年で古典の学習の導入として、「浦島太郎」の物語の変遷が取り上げられている。第2学年では『平家物語』と古典芸能、第1・3学年では、様々な古典作品とその中の言葉が紹介されている。現代にも生きている伝統的な言語文化の理解が深まるように示されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>「日本語探検」では、様々な場面が設定され、キャラクターたちの会話を通して、言葉の特徴や使い方、その変遷に考えがつかないように記載されている。巻末には、二次元コード内の主な内容が一覧で示されており、効果的に学習に取り組めるように文法ゲームなどが取り上げられている。</p>

項目	観 点 の 具 体	15 三省堂 現代の国語
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 国語で正確に理解し適切に表現することに向けて、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 国語の知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、及び現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の伝統的な言語文化や言葉の由来・変化等について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際理解や協調に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 巻頭の「領域別教材一覧」では、領域ごとに身に付けたい力と言語活動・教材名が示され、「思考の方法」では、基本的な思考方法が系統的に紹介されている。巻末では、読むことの観点を示す「読み方を学ぼう」や言葉の力を高めるための「学習用語辞典」、「語彙の広がり」が掲載されている。</p> <p>② 「学びの道しるべ」では、単元ごとに目標や振り返りまでの学習活動や学びを活用するための課題、語彙と教材との関連などが示されている。また「コラム」では、教材に関連する事柄や活用につなげるための文章、日常生活との関連を示す事柄が取り上げられている。</p> <p>③ 「学びを広げる」では、発展的な学習活動が具体的に示されている。「私の読書体験」として作家の読書体験を紹介し、読書の効用が示されている。また巻末の資料編「読書の広場」では、複数の教材が補充的な学習の進め方とともに取り上げられている。</p> <p>④ 全学年に「情報を関係づける」の単元が設けられており、複数の資料を関連付けながら、言語能力を総合的に活用する学習活動が設定され、参考資料は二次元コードで紹介されている。「生かそう」では、学習内容を日常生活の中で生かすための視点が示されている。</p> <p>⑤ 第3学年の「俳句の世界」では、著者が著名人の句を添削する形で、言葉の選び方や取り合わせについて掲載されている。資料編の「日本文学名作集」では、「和歌・俳句」「物語・随筆」に分けて、教科書に出てくる作品や関連する作品が、各学年に対応する形で紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>全学年において、表紙は人間社会の風景と動物を描いた奥行きのある立体的な絵が採用されている。また本編と資料編が、横から見て分かるように色分けがされている。本編の終わりには、中学生にとって有名な曲の歌詞が「歌の言葉」として、イメージ絵とともに掲載されている。</p>

17 教出 伝え合う言葉 中学国語	38 光村 国語
<p>① 巻頭の「言葉の地図」では、教材ごとに付けたい力とそれに対応する言語活動例が示されている。「学びナビ」で、教材ごとに学習の観点が見られ、巻末には一覧が掲載されている。また巻末には、言葉の世界を広げるための「理解に役立つ言葉」や「表現に役立つ言葉」の一覧が示されている。</p> <p>② 単元ごとに「目標・学びナビ・本文・みちしるべ・振り返り」と学習活動の過程が示されている。また「学びを生かす」という項目があり、他教科や日常生活との関連が紹介されている。また巻末には「言葉の自習室」が設けられ、資料ごとに考える視点や目標が示されている。</p> <p>③ 「学びのチャレンジ」では、考える力や目的に応じて判断する力、表現する力を高めるための発展問題が掲載されている。また補足的な学習のために二次元コードが示されている。「読書への招待」で芥川龍之介などの文豪の作品が取り上げられ、作品解説や詳しい資料が示されている。</p> <p>④ 「総合（SDGs）」の単元では、現代社会における課題に関連した複数の資料が「問い」とともに示され、話し合う活動や自分の考えを意見文として書く活動が紹介されている。情報活用能力を育成する題材として、「情報・メディアと表現」が取り上げられている。</p> <p>⑤ 第1学年の「方言と共通語」では、本編で全国各地の方言による「桃太郎」が掲載され、解説編で成り立ち・歴史・使い分けについて、資料を提示しながら紹介されている。効果的に古典学習を進めるために、第1学年の「昔話と古典」で、古典から生まれた昔話が紹介されている。</p>	<p>① 巻頭の「学習の見通しをもとう」では、教材ごとに付けたい力と重点的に学習する内容が色を分けて示されている。また「思考の地図」では、基本的な思考方法が紹介されている。巻末では、読むことの観点を示す「学びのカギ」や言葉の世界を広げるための「語彙ブック」が掲載されている。</p> <p>② 「学びへの扉」では、目標から振り返りまでの学習活動が、単元ごとに示されている。巻末の「発想を広げる」では、発想を広げていくための手がかりとなるテーマ例が掲載されている。また「話す・聞く」「書く」ことの単元では、日常生活や創作表現につながる言語活動例が示されている。</p> <p>③ 「つなぐ」では、自主的な学習への生かし方が具体的に示されている。「読書案内」では、自ら書き込んで紹介するための「私のおすすめ」が設けられている。「国語の力試し」では、領域別の活用問題が掲載されるとともに、発展的な学習に活用できる二次元コードが示されている。</p> <p>④ 「情報×SDGs」の単元では、現代的な諸課題に関連する資料が題材として取り上げられており、情報活用能力を育成するための活動が設定されている。巻末の資料編では、話す活動や書く活動を行う際の手がかりとなる例がSDGsと関連付けながら示されている。</p> <p>⑤ 古典作品は、全学年で年表を示し、時代背景が明確になるように掲載されている。また、第1学年では「古典の世界」で、学習の見通しをもつために3年間で学ぶ古典作品をまとめた年表や紹介文が取り上げられ、第3学年では「つながる古典」で、各作品の関連性を表した図が示されている。</p>
<p>各教材の前に、何を学ぶかを明確にする学習活動のヒントが示されている。「広がる本の世界」として、様々な分野の読書案内が各学年で本編に8～9回、資料編には作品の一部が掲載されている。巻末には「ふるさとを巡る」として、文学にゆかりのある風景写真が紹介されている。</p>	<p>巻末の「ICT活用のヒント」により、学習の中でICT機器を活用すると効果的な場面が具体的に紹介され、各教材との関連性が示されている。学年ごとで、単元の初めのページには、「動き・色・時」を表す言葉が、象徴的な写真とともに取り上げられている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

2

教科 国語

種目 書写

7

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい書写 一・二・三年	1-3	B5変型	146
15	三省堂	現代の書写 一・二・三	1-3	B5	122
17	教出	中学書写	1-3	AB	146
38	光村	中学書写 一・二・三年	1-3	B5変型	166

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい書写 一・二・三年
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 字形を整え、文字の大きさや配列を理解して楷書を書くこと、行書の基礎的な書き方等、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 目的や必要に応じた書き方等、書写の知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むための活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力はもとより、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の伝統的な文字文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際理解や協調に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 書き方のポイントを示した「書写のかぎ」があり、キーワードとなる言葉が太字で示されている。書き方の定着を図る「行書のまとめ」が第1・2学年に、既習事項を確認できる「書写テスト」は学年ごとの末尾に設定されている。</p> <p>② 書写の知識・技能を、日常生活や学校行事における書く活動に活用できるよう「生活に広げよう」という単元が設定されている。巻末の「書写活用ブック」には、学校や日常生活で活用できる書式や硬筆字典が掲載されている。</p> <p>③ 中学生のキャラクターが、文字を書く上での課題意識や書き方を学ぶ意義について語っている。巻頭見開きの「文字を『書く』って、なんだろう」では、文字を書くことについての自分の思いや願いを書く欄が設定されている。</p> <p>④ 職場訪問で取材したことをポスターにまとめたり、本のポップや防災パンフレットを作ったりするなど情報の編集を伴う活動が例示されている。巻末にはフリップやプレゼンテーションでの資料づくりが紹介されている。</p> <p>⑤ 「文字といっしょに」では文字の歴史や伝統的な用具用材について解説されている。年賀状に新年のあいさつの言葉を書く活動が例示されている。書体や書風を比較する活動では、中国の書家による文字が例示されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>「読みやすく書く」「読みやすく速く書く」「効果的に書く」といった目標ごとに紙面の色分けがなされており、配当学年が見開き右下に示されている。書き初めの手本は、3学年分まとめて本編と書写活用ブックとの間に配置されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	I 5 三省堂 現代の書写 一・二・三
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 字形を整え、文字の大きさや配列を理解して楷書を書くこと、行書の基礎的な書き方等、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 目的や必要に応じた書き方等、書写の知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むための活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力はもとより、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の伝統的な文字文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際理解や協調に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① まず書き方のポイントを確認し、次に手本から学んだポイントを見出して実際に書き、そして練習を行う構成になっている。各教材に関する解説動画や参考資料等を二次元コード一覧表にして示している。</p> <p>② 各学年の終末に設定された「やってみよう」では、文字の大きさや書く位置、書体、使用する用具・用材などを考えて文字を書くなど、既習事項を活用する国語科における学習活動が示されている。</p> <p>③ 巻頭に「この教科書の使い方」があり、実際の紙面構成を例に学習の流れが示されている。単元末の「振り返ろう」では、学習内容を実際に書いて確認したり、自分の言葉でまとめたりする書き込み欄が設けられている。</p> <p>④ 地域の魅力について情報を収集し、情報誌にまとめる活動や、生活の中で出会ったお気に入りの言葉を集めた名言集を作成する活動が示されている。レポートを書くための情報収集の仕方と関連する引用カードを書く活動が示されている。</p> <p>⑤ 巻末の「資料編」では、送り状やのし袋の書き方、暑中見舞い、往復はがきの書き方、時候の挨拶の一覧が示されている。文字に関わる仕事についている人たちが大切にしている文字の魅力について読み、話し合う活動が設定されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>どの学年の学習内容かわかるようページ右端にそれぞれの学年の色の帯、または右上に学年の表記がある。巻末に楷書と行書の書き方のポイントが一覧になっており、ポイントごとに該当ページが示されている。</p>

17 教出 中学書写	38 光村 中学書写 一・二・三年
<p>① 楷書の字形や筆順、行書の特徴、仮名の調和などの基本的な学習事項の定着を図るための「学習を生かして書く」が単元末に設定されている。巻末に三年間の学習を確認する「書写テスト」が設定されている。</p> <p>② 試し書きをした後、見本と比較したり提示された問いについて考えたりしながら書き方のポイントを見つけ、そのポイントを生かして他の字を書いたり再度初めの字を書いたりする活動の流れが示されている。</p> <p>③ 三年間の学習を生かして課題を選択して取り組む単元が設定されている。各単元に、運筆動画を見たり、学習の記録や振り返りができるワークシートをダウンロードしたりするための二次元コードが示されている。</p> <p>④ 観察レポートを書くためのキーワードを紐づけたメモやキーワードごとにまとめて分類するメモの仕方が例示されている。考えをまとめる際に、上位概念、下位概念を意識して整理することが示されている。</p> <p>⑤ コラムでは、活字の歴史や特徴、文字を書く目的、短冊と色紙、日本建築と「書」との調和について解説されている。「連綿」の解説とそれを鑑賞し書く活動が紹介されている。エアメールの書き方が例示されている。</p>	<p>① 書き方のポイントをはじめに考えた後、「学びのカギ」で示された書き方を実際に書いて確かめる構成になっている。教科書で学習した内容のさらなる定着を図る書き方練習用冊子「書写ブック」が付属している。</p> <p>② 「情報収集の達人になろう」や「防災フェスタを開こう」などでは、国語科や総合的な学習の時間の活動の中で、書写で学んだ書き方を活用してノートやポスター、看板などの文字を書く活動が例示されている。</p> <p>③ 「三年間のまとめ」では、これまでに学習した内容を振り返り、自分の課題を決めて毛筆で書く活動が示されている。文字に関わる参考資料や、字形、配列、運筆方法を動画で確認するための二次元コードが示されている。</p> <p>④ 書いている姿勢を端末で撮影し確かめたり、書いた文字を撮影し自分の課題を見つけたりする活動が例示されている。メール文、プレゼンテーション資料、デジタル付箋の書き方についてポイントが示されている。</p> <p>⑤ 俳句や和歌、「枕草子」を行書で書いて味わう活動が例示されている。書写の学習の中で意識できるSDGsの取り組みが例示されている。文字の配置を工夫して冊子を作成する活動で、中村哲の国際貢献の本が例示されている。</p>
<p>紙面が大きく手本の文字と主題等が線で隔離している。何をどのように学び、どんな力を身に付けるのか、一本の木のイラストで巻頭に1ページでまとめられている。書き初めの手本は学年ごとに配置されている。</p>	<p>「書写ブック」が取り外し可能で、はがき用紙を切り取って使用できる。毛筆の手本が見開き縦向きに示されている。巻末に横書き仕様で書き初めマスターブックが配置され、書き初め手本は全学年最後のページに配置されている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

3

教科 社会

種目 社会（地理的分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい社会 地理	1・2	A B	294
17	教出	中学社会 地理 地域にまなぶ	1・2	A B	310
46	帝国	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	1・2	A B	310
116	日文	中学社会 地理的分野	1・2	A B	318

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい社会 地理
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 地理的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 地理的事象について、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 章や節の終末に、語句の意味の確認や地図や文章の空欄補充などを行う「確かめよう」が示されている。地図やグラフなどの基礎的・基本的な技能を身に付ける「スキル・アップ」のコーナーが設定されている。</p> <p>② 章や節の終末に、学習した内容をクラスやグループでの話し合いをもとに図表にまとめ、まとめた情報をもとに考えを表現するなどの学習活動がある「みんなでチャレンジ」が設定されている。「えんぴつマーク」で資料から読み取ったことをもとに表現する活動が示されている。</p> <p>③ 見開きページが、導入資料→学習課題→チェック&トライで学習内容をまとめる活動で構成されている。学習を深めるコラムの「もっと知りたい」「未来にアクセス」で関連する話題や、より発展的な内容が掲載されている。</p> <p>④ 世界の諸地域や日本の諸地域では、節ごとに自然環境・生活・文化の学習を踏まえて探究課題を見つける活動、節の終末に課題についてまとめる「探究課題を解決しよう」の活動が設定されている。</p> <p>⑤ 日本の諸地域の、「伝統的な産業や生活・文化の視点」の中の「生活や文化の継承」「伝統産業の変化とグローバル化」では、東北地方の祭りや伝統的工芸品が取り上げられている。他の地方では、沖縄の伝統家屋、京都の舟屋や歴史的景観、北陸の伝統産業が取り上げられている。巻頭の「持続可能な社会の実現に向けて」で、世界の人々が多様な生活や文化を理解し合い互いに尊重することの大切さが記されている。北方領土、竹島、尖閣諸島は「日本固有の領土」と記されている。見開き1ページで北方領土、竹島、尖閣諸島の自然環境や資源について説明されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>世界の諸地域には85ページ、日本の諸地域には85ページが配当されている。各州の冒頭に、地図や写真、世界に占める面積・人口・各国のあいさつが、各地方の冒頭に、地図や写真、日本に占める面積・人口・県章・シンボルが付されている。インターネットを活用した学習のための二次元コードが付されている。章ごとにページ番号の帯の色が統一されており、帯の下に学習している州名、地方名が記されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学社会 地理 地域にまなぶ
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 地理的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 地理的事象について、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 章や節の終末に、語句の意味の確認や地図や文章の空欄補充などを行う「学習したことを確認しよう」が設定されている。地図帳の使い方や人口ピラミッドの作り方などを学ぶ「地図にアプローチ」、略地図の作成の仕方やグラフの読み取り方を学ぶ「地理の技」のコーナーが設定されている。</p> <p>② 見開きページに、「〇〇について説明しよう、まとめよう」という形で、学習内容を表現する活動を示した「表現!」が設定されている。章や節の終末に、学習内容を文章や表、思考ツールにまとめる「学習したことを振り返ろう」が設定されている。</p> <p>③ 見開きの冒頭に学習課題が示され、「確認と表現」でまとめる流れで構成されている。資料の読み取りのヒントなどが「LOOK!」という解説文で紹介されている。折込のページやコラム「地理の窓」では発展的な内容が示されている。</p> <p>④ 節の終末に、「持続可能な社会」を実現するためにはどのような取り組みが必要か等について資料をもとにグループで話し合う活動や「住み続けられる」地域づくりについて話し合う活動が設定されている。</p> <p>⑤ 日本の諸地域の、「歴史的な視点」の内容として京都の景観と保存について、「伝統文化の視点」の内容として東北の食文化、伝統的工艺品や行事、家屋、祭りが取り上げられている。他の地方では、沖縄の伝統芸能や北陸の地場産業・伝統的工艺品が取り上げられている。巻頭の「地理の学習を始めるにあたって」では、「地球的課題とSDGs」を紹介し、各州の導入や特設ページにも17の目標が記されている。北方領土、竹島、尖閣諸島は「日本固有の領土」と記されている。見開きで北方領土、竹島、尖閣諸島の歴史について説明されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>世界の諸地域には84ページが配当されており、国を取り上げたページでは、地球儀のような図が付されている。日本の諸地域には106ページが配当されている。学習に役立つ情報が見られるウェブサイトにつながる二次元コードが、各編や章の最初のページに付されている。本文ページ下の欄外に、本文と内容が関連するページが示されている。章や節ごとにページ番号横の帯の色が統一されている。</p>

46 帝国 社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	116 日文 中学社会 地理的分野
<p>① 章や節の終末に、語句の意味の確認や地図や文章の空欄補充などを行う「学んだことを確かめ、章の学習内容を振り返ろう」等が設定されている。地図帳の使い方や、グラフや地図の読み取り方、作成の仕方などを学ぶ「技能をみがく」のコーナーが設けられている。</p> <p>② 見開きページに、自分の言葉で学習内容を説明する活動を示した「説明しよう」が設けられている。章や節の終末に、学習した内容を図表にまとめ、情報を関連付けて地域の特徴などを考察する活動や、地域の課題について話し合う活動などが示されている。</p> <p>③ 見開きページが、導入資料→学習課題→本文資料→内容を振り返る課題という流れで構成されている。章ごとに「章の問い」、節ごとに「学習を見通そう」が設定されている。コラムの「地理プラス」では、学習内容に関連した事例が紹介されている。</p> <p>④ 特設ページの「アクティブ地理 AL」では、「課題解決に向けた取り組みを考えよう」など4テーマの活動が設定されている。節末には資料をもとにグループで話し合う「節の問いについて、考えを深めよう」の活動が設定されている。</p> <p>⑤ 日本の諸地域の、「生活・文化に注目する視点」で、東北地方の伝統行事や祭り、伝統的工芸品について、「環境保全に注目する視点」で、近畿地方の奈良や京都の伝統的工芸品、歴史的景観について取り上げられている。他の地方では、沖縄の家屋や伝統芸能、北陸の地場産業が取り上げられている。巻頭の「よりよい社会を目指して」では持続可能な社会を実現するため、日本や社会で行われている活動が紹介されている。北方領土、竹島、尖閣諸島は「日本固有の領土」と記されている。見開きページで北方領土、竹島、尖閣諸島の歴史や資源について説明されている。</p>	<p>① 地図や文章の空欄補充などによる振り返りができるように章末や節末に「自分の考えをまとめるために必要な知識を確認しよう」が設定されている。グラフや地図の読み取り方、作成の仕方などを学ぶ「スキルUP」のコーナーが設けられている。</p> <p>② 見開きページに、学習内容を踏まえて自分の言葉で説明する「表現」が設けられている。章末のまとめには、表や思考ツールを活用して情報をまとめたり、クラスで意見交換したりする活動を取り上げた「学び合い」が設けられている。</p> <p>③ 見開きページが、導入資料→学習課題→「確認」と「表現」という流れで構成され、学習課題に対応した「見方・考え方」の例が示されている。「トライ」では学習内容を深める作業が示されている。地理+αでは課題の理解を深める内容が紹介されている。</p> <p>④ 世界の諸地域、日本の諸地域では「自然環境と人々のかかわり」の学習を踏まえて、節の問いを立てる活動が設定されている。問いに対する疑問や答えの予想をポートフォリオに書き込む活動が設定されている。節の終末には、問いに関連してグループで議論する活動が設定されている。</p> <p>⑤ 日本の諸地域の、「歴史的背景をテーマに」で歴史的背景と人々の生活の両立を課題に設定し、京都や奈良の伝統的工芸品について、「持続可能な社会づくりをテーマに」で東北の年中行事や祭り、伝統的工芸品について取り上げられている。他の地方では、沖縄の家屋や料理、伝統的工芸品、北陸の地場産業や伝統産業が取り上げられている多文化社会に関する学習活動が設定されている。北方領土、竹島、尖閣諸島は「日本固有の領土」と記されている。見開きページで北方領土、竹島、尖閣諸島の歴史や資源について説明されている。</p>
<p>世界の諸地域には 82 ページ、日本の諸地域には 116 ページが配当されている。各州の冒頭に、土地利用等の地図や各地の写真が付されている。各地方の冒頭に、各地の特徴的な事項を表すイラストが配された地図や写真が付されている。学習の補助となる動画などを見ることが出来る二次元コードが、章や節の始めと終わりに付されている。見開きページの右端に帯が付され、ページ番号の帯の色や、各章の色が統一されている。</p>	<p>世界の諸地域には 85 ページ、日本の諸地域には 113 ページが配当されている。各州の冒頭に、土地利用等が示された地図と世界に占める面積・人口・GDP のデータが、各地方の冒頭に、土地利用等が示された地図と日本に占める面積・人口・県内総生産のグラフが付されている。ウェブページにあるデジタル資料を活用するための二次元コードが付されている。見開きページの右端に帯が付けられており、ページ番号の帯の色とともに、章ごとに色が統一されている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

4

教科 社会

種目 社会（歴史的分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい社会 歴史	1-3	AB	300
17	教出	中学社会 歴史 未来をひらく	1-3	AB	317
46	帝国	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	1-3	AB	334
81	山川	中学歴史 日本と世界 改訂版	1-3	AB	296
116	日文	中学社会 歴史的分野	1-3	AB	324
225	自由社	新しい歴史教科書	1-3	AB変型	312
227	育鵬社	新しい日本の歴史	1-3	AB	308
229	学び舎	ともに学ぶ人間の歴史	1-3	A4	308
236	令書	国史教科書 第7版	1-3	A5	520

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新編 新しい社会 歴史
<p>(1)</p> <p>内 容 の 特 徴 ・ 表 現</p>	<p>① 歴史的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 「スキル・アップ」のコーナーで、技能習得の活動が設定され、小单元ごとの「チェック&トライ」で、基本的な学習内容を確認する課題が示されている。また、章扉で時代の特色を表すイラストや資料、人物中心の年表が掲載されている。</p> <p>② 時期、推移、比較、関連、現在といった様々な見方・考え方を働かせる視点が「虫めがねマーク」とともに示されている。また、各单元で取り扱う歴史的事象に関連した資料について思考する活動が、「えんぴつマーク」によって示されている。</p> <p>③ 「もっと知りたい！」や、小单元で取り扱う主な人物紹介などでは、補充的資料となるコラムが掲載されている。小单元ごとに学習を広げるデジタルコンテンツにアクセスするための二次元コードが示されている。</p> <p>④ 「みんなでチャレンジ」では、対話的な学びのためのグループ活動が示されている。「未来にアクセス」で歴史的事象と現代の諸課題との関連が示され、歴史的分野の学習のまとめとして課題について考察する活動が設定されている。</p> <p>⑤ 「地域の歴史を調べよう」では福井や広島、新潟などの地域を取り上げ、身近な地域を調べる視点が示されている。また、「もっと知りたい！」の中で、国際社会と日本との平和的な関連についてエルトゥール号遭難事件など、国際社会における課題としてパレスチナ問題などが取り上げられている。</p>
<p>(2)</p> <p>構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等</p>	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>古代から近世までに122ページ、近現代に130ページ、古代文明から欧米の近代化までに関する世界史的内容には28ページが割り当てられている。各章の探究課題や各節の探究のステップ（学習課題）、小单元ごとの学習課題が設定され、各章末の「学習をふり返り、まとめよう」で思考ツールや年表などを用いて、まとめの活動を行うよう構成されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学社会 歴史 未来をひらく
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 歴史的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 小单元ごとに「確認・表現」というコーナーが設けられており、基礎的な学習内容を振り返り、確認する活動が示されている。また、各章のはじめの「学習のはじめに」では、時代の特色を表すイラストや資料、人物中心の年表が掲載されている。</p> <p>② 小单元ごとに、学習課題を考えるヒントとなる吹き出しが示され、資料を読み取ったり考えを深めたりする「THINK!」が設定されている。「歴史を探ろう」などに設けられた「TRY!」では様々な視点から歴史を捉える活動が設定されている。</p> <p>③ 「歴史を探ろう」では補充的な資料とコラムが掲載され、学習内容を深めるための活動が設定されている。補充的資料としてコラム「歴史の窓」や関連動画や学習に役立つサイトへアクセスする二次元コードが示されている。</p> <p>④ 各章のまとめでは、学習内容に関する資料を読み取り、説明する学習活動が設定されている。また、歴史的分野の学習のまとめとして、歴史的事象とSDGsの目標を関連付けて、現代の諸課題について考察する活動が設定されている。</p> <p>⑤ 「身近な地域の歴史を調べよう」の中の「移り変わる戦後の街を訪ねて」などでは、身近な地域を調べる学習の例が示されている。「歴史を探ろう」の中で、「戦争の記憶をつなぐ」や「隣国と向き合うために」として、第二次世界大戦に関する資料や日本の領土をめぐる課題などが、特設ページで解説されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>古代から近世までに123ページ、近現代に144ページ、古代文明から欧米の近代化までに関する世界史的内容には28ページが割り当てられている。各章のはじめに「学習の見通し」や各章節の問い、小单元ごとの学習課題が設定され、各節末の「節を捉える」で節のまとめ、各章末の「学習のまとめと表現」で三段階の章のまとめ活動を行うよう構成されている。</p>

<p>46 帝国 社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き</p>	<p>81 山川 中学歴史 日本と世界 改訂版</p>
<p>① 章扉で、小学校の学習内容を振り返り、「タイムトラベル」では各時代の特色がイラストで示されている。また、小單元ごとの「確認しよう」で学習内容を確認する活動が設定され、「技能をみがく」では技能習得の活動が設定されている。</p> <p>② 小單元ごとに、導入資料について考えるきっかけとなる問いが吹き出して示され、資料を読み取る視点と活動が示された「資料活用」が設定されている。「アクティブ歴史」では、見方・考え方を働かせて、歴史的事象を考える活動が設定されている。</p> <p>③ 「歴史を探ろう」や「歴史プラス」では学習内容を深める資料やコラムとともに学習課題が設定され、「地域史」では補充的資料となるコラムが掲載されている。巻頭などに用語解説や動画等のデジタルコンテンツへアクセスする二次元コードが示されている。</p> <p>④ 各学習活動に対話的な学びにつながる対話マークが示され、「未来に向けて」で歴史的事象と現代の諸課題との関連について示されている。歴史的分野の学習のまとめとして、SDGs の目標などを用いて、課題解決について考察する活動が設定されている。</p> <p>⑤ 「未来に向けて」では、テーマの一つに日本の「伝統・文化」を設定し、参考となる人々の取り組みなどを紹介している。「歴史を探ろう」の中で、「戦場となった沖縄」や「日本の領土画定と近隣諸国」として、沖縄戦に関する資料や解説、日本の国境の変遷や資料などが、特設ページを設けて解説されている。</p>	<p>① 小單元ごとの「ステップアップ」のコーナーで、基礎的な学習内容を確認しながら、その内容をもとに考察する活動が設定されている。また、章扉で各時代に関係の深い、日本と世界の主な歴史的事象や資料が、年表とともに掲載されている。</p> <p>② 小單元ごとに、写真やグラフ、コラムなどに関連して、「なぜ」「どのように」「どこが」「何が」などの視点から、歴史的事象の背景や要因を考察したり、資料に関して思考し判断したりする課題が示された「Q マーク」が設けられている。</p> <p>③ 補充的資料となる「コラム」などが掲載され、「歴史へのアプローチ」では、コラムと資料とともに学習内容を深めるための学習課題が設定されている。関連動画や拡大画像にアクセスする二次元コードが示されている。</p> <p>④ 各章にある「歴史を考えよう」では、時代ごとに取り上げた学習課題を話し合い、考察しながら学ぶ活動が設定されている。第7章のまとめでは、現代において解決すべき課題の分類例を示し、解決すべき課題と解決策について考察する活動が設定されている。</p> <p>⑤ 「地域からのアプローチ」では金沢や広島などの都市を取り上げ、身近な地域を調べる学習の例が示されている。「歴史へのアプローチ」の中で「日本の領土の変遷」や「日本の植民地」として、日本の国境の変遷、日本の植民地政策に関する資料などが、特設ページを設けて解説されている。</p>
<p>古代から近世までに 146 ページ、近現代に 146 ページ、古代文明から欧米の近代化までに関する世界史的内容には 32 ページが割り当てられている。各章節の問い、小單元ごとの学習課題とともに、各章のはじめに学習する時代の見通しをもたせる活動が設定されている。各章末の「学習を振り返ろう」で年表や地図などを用いて、まとめの活動を行うよう構成されている。</p>	<p>古代から近世までに 140 ページ、近現代に 130 ページ、古代文明から欧米の近代化までに関する世界史的内容には 36 ページが割り当てられている。各章のはじめに日本史と世界史を列記した年表や「○世紀の世界」として世界史の歴史的事象が記された地図が掲載されている。小單元ごとの学習課題が設定され、各章末の「まとめ」はワークシート形式で行うよう構成されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	116 日文 中学社会 歴史的分野
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 歴史的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 「スキル UP」のコーナーや小單元ごとの「確認・表現」で、基礎的な学習内容の確認とともに、技能習得の活動が掲載されている。また、「学習のはじめに」では、小学校の学習内容と関連させた年表と、世界の動きがわかる地図が掲載されている。</p> <p>② 小單元ごとに、学習課題を考えるうえでヒントとなる吹き出しが示され、解決に向けて手がかりとなる見方・考え方が示されている。「チャレンジ歴史」では資料をもとに歴史的事象について考察し、様々な視点から歴史を捉える活動が設定されている。</p> <p>③ 「歴史を掘り下げる」や「近代の女性」、「先人に学ぶ」などの視点から歴史的事象を解説しているコラムが補充的資料として掲載されている。小單元ごとに、見通しをもたせる動画や小テストにアクセスする二次元コードが示されている。</p> <p>④ 各章や資料活用の問いに「学び合い」マークが示されており、対話的な学びができるようになっている。また、歴史的分野の学習のまとめとして、「災害」や「政治参加」などの課題例が示され、現代の諸課題について考察する活動が設定されている。</p> <p>⑤ 「でかけよう！地域調べ」では、具体的な遺跡や町を取り上げ、身近な地域を調べる学習の手法が示されている。「歴史を掘り下げる」の中の「冷戦終結後の近隣諸国との関係」では、日本の国境の変遷について特設ページで解説されている。「チャレンジ歴史」の中に「戦争体験者の言葉」が掲載されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>古代から近世までに136ページ、近現代に138ページ、古代文明から欧米の近代化までに関する世界史的内容には24ページが割り当てられている。各章のはじめに学習の見通しのための図版や、各編節の問いと小單元ごとの学習課題が設定されている。各節末に着目点を示して節のまとめ、各編末の「まとめとふり返し」で時代区分の特色をつかむ活動で編のまとめを行うよう構成されている。</p>

225 自由社 新しい歴史教科書	227 育鵬社 新しい日本の歴史
<p>① 各章のはじめの「登場人物紹介コーナー」では、小学校で学習した人物をもとに時代の流れを確認するページが設けられている。小單元ごとの「チャレンジ」や章末の「復習問題のページ」で基本的な学習内容を確認する活動が掲載されている。</p> <p>② 各單元における歴史的事象や資料、学習課題に関する活動について、資料の読み取りや学習課題の解決へのヒントや問いが吹き出して示されている。単元で取り上げる歴史的事象に関する見方・考え方のヒントを与える資料が掲載されている。</p> <p>③ 「人物クローズアップ」や「歴史の言葉」、「知っ得ポイント！」などでは、学習内容に関する補充的資料としてコラムが掲載されている。「もっと知りたい」では補充的な資料や、内容によっては発展的な学習課題が示されている。</p> <p>④ 各章末には、対話的な学びとして「対話とまとめ図のページ」が設けられている。歴史的分野の学習のまとめとして、歴史的事象に関する「三つの日本」や「国家」などの課題が示され、スピーチ発表をする活動が設定されている。</p> <p>⑤ 「外の目から見た日本」の中で、世界に影響を与えた浮世絵を特設ページで紹介している。「もっと知りたい！」の中で、「世界にほこる女流文学」として『源氏物語』を取り上げ、世界的に評価の高いことや、「勇気と友情の物語」としてエルトゥールル号などを紹介している。</p>	<p>① 「鳥の目で見る」で、その時代の大まかな流れや重要人物を確認し、「虫の目で見る」の資料から時代の特徴をつかむ活動が設定されている。また、小單元ごとの「確認・探究」で基礎的な学習内容を振り返り、確認する活動が設定されている。</p> <p>② 小單元ごとに、導入資料について考えるきっかけとなる問いが吹き出して示されている。また、学習課題の解決につながる資料について、情報を読み取ったり、まとめたりする「資料活用」コーナーや、見方・考え方を働かせるコーナーが設定されている。</p> <p>③ 「人物クローズアップ」では補充的資料としてコラムが掲載され、「歴史ビュー」では歴史的事象について様々な視点から解説しているコラムが掲載されている。学習に関連するウェブページへアクセスする二次元コードが示されている。</p> <p>④ 各章末のまとめには、各時代の特徴を考察し、考察した内容と「日本」を関連付けて、話し合う活動が設定されている。歴史的分野の学習のまとめとして、「日本の歴史を大観する」ための三つの言語活動が設定されている。</p> <p>⑤ 「地域の歴史を調べてみよう！」では、具体的な町を取り上げ、身近な地域を調べる学習の手法が示されている。「歴史ズームイン」の中の特設ページで、世界に影響を与えた浮世絵や、沖縄戦と終戦などについての従軍作家の抜粋文などが紹介され、「日本の領土をめぐる問題」で日本の国境の変遷が解説されている。</p>
<p>古代から近世までに 130 ページ、近現代に 139 ページ、古代文明から欧米の近代化までに関する世界史的内容には 20 ページが割り当てられている。小單元ごとの学習課題が設定され、章末の「時代の特徴を考えるページ」では時代の流れを整理したり時代を比較したりして時代の特徴について考え、まとめ図などを用いて各章のまとめの活動を行うよう構成されている。</p>	<p>古代から近世までに 122 ページ、近現代に 133 ページ、古代文明から欧米の近代化までに関する世界史的内容には 24 ページが割り当てられている。各章のはじめに、各章の課題とともに歴史の流れを大観させる「歴史絵巻」が掲載されている。各節の課題、小單元ごとの学習課題が設定され、各章末「学習のまとめ」でグラフや年表を用いて、まとめの活動を行うよう構成されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	229 学び舎 とともに学ぶ人間の歴史
<p>(1)</p> <p>内 容 の 特 徴 ・ 表 現</p>	<p>① 歴史的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 「歴史を楽しく学ぼう」のページでは、小学校で学習した人物や歴史的事象をカードにまとめ、学習内容を確認する活動が設定されている。また、小学校で学んだ人物がどの時代で活躍したか、年表を使って表す活動が設定されている。</p> <p>② 小単元で取り扱う歴史的事象の学習内容について考察することができるような表現で小単元のタイトルの主題が示され、歴史的事象が副題として示されている。また、小単元のタイトルと関連した表現による学習課題が設定されている。</p> <p>③ 「フォーカス」では、単元で取り扱う歴史的事象や人物を紹介するコラムが掲載されている。また、当時の様子を読み取ることができるデータや、単元で取り扱う歴史的事象を様々な視点から解説する補充的資料が掲載されている。</p> <p>④ 各章末の「学習のまとめ」には、グループやクラスでの発表、生徒自らが他の生徒に学習内容に関する問題を作る活動が設定されている。また、歴史的事象に関する解説や資料をもとに意見交流する「対話・討論にチャレンジ」が設けられている。</p> <p>⑤ 「歴史を体験する」の中の「地域の歴史を歩く」では、身近な地域を調べる学習の例が示されている。また、「歴史を体験する」の「一人ひとりの歴史・家族の歴史」では、身近な地域や家族の歴史と、日本の歴史を関連付ける活動が設定されている。「歴史への案内」の中の「歴史と出会う」では沖縄戦が紹介されている。</p>
<p>(2)</p> <p>構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等</p>	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>古代から近世までに126ページ、近現代に146ページ、古代文明から欧米の近代化までに関する世界史的内容には34ページが割り当てられている。各章のはじめに世界の様子が世界地図などにより示され、各部・小単元ごとの学習課題が設定されている。各部末の「学習のまとめ」、各章末の「第〇章をふりかえる」では、資料や年表を用いてまとめの活動を行うよう構成されている。</p>

236 令書 国史教科書 第7版

- ① 単元のはじめの年表のページでは、単元で扱う時代の主な歴史的事象を確認できるようになっている。また、小単元の終わりの「考えよう」のコーナーで学習内容について考察する活動が設定され、内容によっては考える際のヒントが示されている。
- ② 「歴史学習の幅を広げよう」では、歴史小説や歴史漫画などを取り上げ、当時の世相や歴史の流れを考察する方法が示されている。また、フィクションとノンフィクションの違いを明確に示し、歴史的分野の学習に対する思考力や判断力について解説されている。
- ③ 各章には、章で取り扱う歴史的事象に関連するコラムや人物紹介が様々な文献資料とともに、補足的資料として掲載されている。学習内容に関連した歴史漫画「承久の乱」にアクセスする二次元コードが示されている。
- ④ 「歴史について議論しよう」では、生徒が決めた歴史的事象をテーマとし、生徒同士で議論する学習の例が示され、「ディベートをしてみよう」や「ディスカッションしよう」で歴史的事象を様々な側面から捉える活動が設定されている。
- ⑤ 「field work」の中の「身近な歴史を年表にまとめよう」や「市町村歌を調べてみよう」、「文化遺産を調べに行こう」などで、身近な地域を調べる学習の手法が示されている。巻末には「日本美術図鑑」として 30 ページ以上にわたって各時代の日本の代表的な文化財が解説とともに掲載されている。

古代から近世までに 252 ページ、近現代に 191 ページ、古代文明から欧米の近代化までに関する世界史的内容には 26 ページが割り当てられている。小單元ごとの学習課題とともに、各章のはじめには年表とともに、政治や文化など四つの側面からの学習課題が設定されている。各章末の「まとめ学習」では、年表を用いて、四つの側面からまとめの活動を行うよう構成されている。

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

5

教科 社会

種目 社会（公民的分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい社会 公民	3	A B	246
17	教出	中学社会 公民 とともに生きる	3	A B	269
46	帝国	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	3	A B	262
116	日文	中学社会 公民的分野	3	A B	274
225	自由社	新しい公民教科書	3	A B変型	270
227	育鵬社	新しいみんなの公民	3	A B	262

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい社会 公民
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 社会的事象について、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 章の最初に小学校と地理的分野・歴史的分野で学習した内容が記されている。見開き左上段に学習課題が、左下欄外に基礎的・基本的な内容を確認するための課題が示されている。技能を身に付けるための「スキルアップ」のコーナーや章末に基礎的・基本的な内容を確認する活動が設定されている。</p> <p>② 見開きの最後にある「トライ」では、学習課題に関する問いに、指定された語句を使うなどして説明する活動が設けられている。考え方の視点を示した「見方・考え方」、技能を活用し考える「えんぴつマーク」の部分や、章末の「深めよう」などでは、実社会に関する題材を取り上げ、自分の考えをまとめたり、表現したりする活動が設定されている。</p> <p>③ 「導入の活動」のページでは、章の探究課題を示し、学習する内容の見通しをもたせるための課題が設定されている。「もっと知りたい！」は、本文に関連する内容をより詳しく学習できる発展的内容が示されている。各章の最後には「まとめの活動」のページがあり、二次元コードを読み取ることで、各章で出てきた用語の意味を家庭で復習できるような課題が設定されている。</p> <p>④ 「みんなでチャレンジ」のコーナーが設けられており、学習者の問題解決的な思考を促したり学習者間での対話的な学びを促進したりするテーマが取り上げられている。対話を促すための「ヒント」や思考ツールが提示されている。学習のまとめ方について、終章で取り上げている。</p> <p>⑤ 文化に6ページを当て、伝統文化として、能や歌舞伎、衣食住や年中行事などが記されている。伝統文化を守りながら、新しい文化を創造していくことの必要性が記されている。領土をめぐる問題に2ページを当て、北方領土と竹島、尖閣諸島について、それぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組が記載されている。日本の国際貢献については2ページを当て、ODA、持続可能な開発のためのアジェンダ、外交政策などについて掲載されている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量、使用上の便宜等</p>	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>現代社会 31 ページ、憲法 40 ページ、政治 52 ページ、経済 52 ページ、地球社会 35 ページ、終章 8 ページとなっている。使い方のガイダンスは、2 ページで、「章の構成と学び方」と「本文ページの構成と学び方」が記されている。見開きは、学習課題を追究するきっかけとなる導入資料→学習の内容について見通しを持つことができる「学習課題」→本文→学んだことを振り返る「チェック＆トライ」の流れで構成されている。見開きにデジタルコンテンツを活用できる二次元コードが付されている。巻末には用語解説一覧が配置されていて、デジタルコンテンツにアクセスして用語の解説を見ることができるようになっている。</p>

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学社会 ともに生きる
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 社会的事象について、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 見開き左中段に学習課題が、本文の語句や言葉を補足した解説が側注に、地理的分野・歴史的分野や小学校の学習との関わりが左下欄外に記されている。右下に基礎的・基本的な内容を確認するための課題が記されている。章末で基礎的・基本的な内容が示されている。</p> <p>② 見開きの最後にある「表現」では、学習課題に関する問いを説明したり、意見を交換し合ったりする活動を設けており、考える視点を活用する問いには、「見方×考え方」のマークが示されている。章末の「学習のまとめと表現」の「STEP 1」で、学習前の考えを振り返りながら、「STEP 2」で、思考ツールを用いて考えをまとめる活動が設定されている。</p> <p>③ 「学習のはじめに」のページでは、各節ごとの学習課題が提示されている。「JUMP!」では、各章の終わりに学習と関連した「未来のためにできること」が発展課題として提示されている。本文に関連する内容をより詳しく学習できる発展的内容として「公民の窓」のコラムが提示されている。「学習のまとめと表現」のページでは、語句などを家庭で復習できる課題が設定されている。</p> <p>④ 章の導入の「ウォーミングアップ」で、個人の思考や意見交換をもとに見通しをもつ活動を促している。学習者の問題解決的な思考や対話的な学びを促進する「TRY」や、技能や表現力を養う「公民の技」が設定されている。「公民にアプローチ」で情報と発表についてまとめられている。</p> <p>⑤ 文化に6ページを当て、伝統文化として、衣食住、生活文化、能や歌舞伎などが記されている。地域文化の保存と継承、異文化理解と新たな文化の創造について記されている。領土をめぐる問題に2ページを当て、北方領土と竹島、尖閣諸島についてそれぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組が記載されている。領土問題とも関わり、外交の重要性について2ページを当てている。日本の国際貢献については2ページを当て、ODA、NGOなどについて掲載されている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量、使用上の便宜等</p>	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>現代社会 26 ページ、憲法 44 ページ、政治 46 ページ、経済 40 ページ、社会保障 24 ページ、国際社会 36 ページ、終章 8 ページとなっている。使い方のガイダンスは 2 ページで、「本文ページの見方・使い方」などについて記されている。公民で学ぶ主な内容や具体的な学び方、ノートづくりについて 2 ページを当てている。見開きは、学習へのきっかけや追及の中心となる導入資料→何について追及していくのかを示した「学習課題」→本文→学習の振り返りと活用をする「確認」と「表現」という流れで構成されている。学習に役立つ様々な情報を活用できる二次元コード示されている。巻末には用語解説が 4 ページ掲載されている。</p>

46 帝国 社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	116 日文 中学社会 公民的分野
<p>① 章の最初に、小学校や地理的分野・歴史的分野との関連が記されている。見開き左中段にこのページの学習課題、タイトル下に節の学習課題が示されており、用語の解説がページ内に記されている。章末に基礎的・基本的な内容を確認する活動が設定されている。</p> <p>② 見開きの最後にある「説明しよう」で学習課題に関する問いを説明する課題が設定されている。また、考える視点や語句を活用する問いや資料などには、「見方×考え方」のマークが示されている。章末の「学習を振り返ろう」の「章の振り返り」では、学習前の考えを振り返りながら、チャートを用いて考えをまとめる活動が設定されている。</p> <p>③ 「学習の前に」のページでは、イラストとともに「章の問い」が示されている。「探究学習への準備」では、各章での学習を振り返り、探究テーマを主体的に考える課題が設定されている。発展的内容として「公民+」では、より詳しい内容がコラムやインタビュー形式で掲載されている。「節の振り返り」のページでは、節で学習した内容を家庭で復習できる課題が設定されている。</p> <p>④ 具体的な主題について、個人で思考をまとめたり、対話的な学習を促したりする「アクティブ公民」のコーナーが、特設ページや見開きページ内に設定されている。見開きページや章末のまとめ中の「対話」マークで、他の学習者とのやり取りを通じて思考を広げる活動が示されている。</p> <p>⑤ 文化に4ページを当て、伝統文化として、能や狂言、和服や和食などが記されている。社会の変化に合わせ、変わる部分と変わらない部分を調和させながら、文化を引き継ぎ、創造していくことの大切さが記されている。領土をめぐる問題に2ページを当て、北方領土と竹島、尖閣諸島についてそれぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組が記載されている。国際社会における日本の役割については2ページを当て、平和主義やODAなどについて掲載されている。</p>	<p>① 章の導入に小学校での学習内容が示されている。見開き左上段にその時間の学習課題、左下欄外に節の問いが、右下には基礎的・基本的な内容を確認するための課題が記されている。章末で基礎的・基本的な内容を確認する活動が設定されている。巻末には類似用語集が掲載されている。</p> <p>② 各項の最後にある「表現」で学習内容をまとめたり、学習課題に関する問いを説明したりする場面が設けられている。学習課題の解決の視点を示した「見方・考え方」や、資料から考えを深める「アクティビティ」、章末の「章の問いに答えよう」では、学習内容を振り返りながら、思考ツールを用いて考えをまとめる学習が設定されている。</p> <p>③ 「学習のはじめに」のページでは、章の問いと各節ごとの問いが提示され、学習の見通しが示されている。「明日に向かって」では、社会に参画するための手がかりとなる事例が紹介されている。発展的内容として「公民+α」のコラムが提示されている。「まとめとふり振り返り」のページでは、語句の確認など家庭で復習できる課題が設定されている。</p> <p>④ 全体を通して、話し合いなど対話的な活動を行う箇所が「学び合い」マークで明示されている。社会の課題について考察・意見交換する「チャレンジ公民」や、インターネットや新聞を通じた情報の扱いについて考える「情報スキルアップ」等の特設ページが設定されている。</p> <p>⑤ 文化に4ページを当て、伝統文化として、年中行事、更衣、能や歌舞伎、お花見などが記されている。伝統文化を現代の社会に生かす工夫が必要であると記されている。領土をめぐる問題に4ページを当て、北方領土と竹島、尖閣諸島について、それぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組とともに、世界の領土問題とその解決が紹介されている。日本の国際貢献については2ページを当て、ODA、PKO、人間の安全保障基金などについて掲載されている。</p>
<p>現代社会 28 ページ、憲法と政治 86 ページ、経済 66 ページ、国際社会 34 ページ、終章 10 ページとなっている。使い方のガイダンスは2ページで、「教科書を活用した学び方」が示されている。また、「公民的分野の学習の全体像」、「現代社会の見方・考え方」、「考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～」について3ページ記されている。見開きは、学習内容につながる具体的例をあげた導入資料→学習内容を見通す「学習課題」→本文→学習内容を確認する「確認しよう」、自分の言葉で説明する活動を通して振り返りをする「説明しよう」の流れで構成されている。用語解説等の様々なコンテンツにアクセスできる二次元コードが付されている。</p>	<p>現代社会 32 ページ、憲法 44 ページ、政治 46 ページ、経済 60 ページ、国際社会 34 ページ、終章 10 ページとなっている。「公民を学ぶにあたって」について1ページ記されている。使い方のガイダンスは2ページで、教科書の構成と学び方について記されている。見開きは、本文の導入になる導入資料→何を学んでいくか示した「学習課題」→課題解決の手掛かりになる「見方・考え方」→本文→学習課題に対応し、学習を確かめる「確認」・「表現」の流れで構成されている。見開きにデジタルコンテンツを活用できる二次元コードが付されている。巻末には現代の世界の様子を表す世界地図、現代史年表、用語解説などが8ページ掲載されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	225 自由社 新しい公民教科書
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 社会的事象について、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 見開きページのタイトル下部に学習課題が記され、本文中の語句や事柄に関する解説が側注に記されている。見開き右下に「ここがポイント」として、重要な確認事項が記されている。章末に、重要語句の中からさらに重要な語句が「最重要語句」として記されている。</p> <p>② 「アクティブに深めよう」の「深めよう」では、グループでの話し合いを踏まえて、自分の考えをまとめたり、発表したりする活動を設けている。また、章末の「学習のまとめと発展」の「学習の発展」では、複数のテーマから1つを選択させ、文字数を示しながら、自分の考えをまとめる活動が設定されている。</p> <p>③ 章の最初のページでは章の問いが提示されている。本文に関連する内容をより詳しく学習できる発展的内容として「ミニ知識」や「もっと知りたい」のコラムが提示されている。各章の「学習のまとめと発展」のページでは、章で出てきた語句を家庭で復習するための「3つの問題」が設定されている。「やってみよう」では、自主的に調べることができるような課題が設定されている。</p> <p>④ 特設ページや見開きページ内の「アクティブに深めよう」において、個別のテーマや発展的な内容を基に考察したり、意見交換を行ったりする活動が設定されている。終章で、レポートのまとめ方やディベートの行い方などが具体的に扱われている。</p> <p>⑤ 文化に10ページを当て、文化の継承と創造について説明するとともに、日本人の精神・科学・芸術・宗教について取り上げられている。愛国心についても2ページを当てている。我が国の領域に関する課題、領土問題、海をめぐる国益の衝突について5ページを当て、北方領土と竹島、尖閣諸島についてそれぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組が記載されている。日本の国際貢献については2ページを当て、ODAなどについて掲載されている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量 使用上の便宜等</p>	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>現代社会 22 ページ、社会生活 20 ページ、立憲国家 22 ページ、憲法・政治 56 ページ、経済 44 ページ、国際社会 42 ページ、終章 18 ページとなっている。使い方のガイダンスは2ページで、「この教科書で学ぶにあたって」で、「公民を学ぶ目的」と「教科書の使い方」を、「各章末の学習のまとめと発展の取り組み方」で「学習のまとめ」、「3つの問題」、「学習の発展」について記されている。見開きは、学習を始めるきっかけとなる導入資料→学習の目当てを示す学習課題→本文→学習内容を振り返る「ここがポイント」の流れで構成されている。巻末には、現代社会のあゆみとして、1945年からの主なできごとが掲載されている。</p>

227 育鵬社 [最新]新しいみんなの公民

- ① 各章の最初に学習内容がまとめられている。見開き左上部に学習課題が、中央部に節の問いが示され、本文補足が側注で解説されている。右下「確認」で基本的・基礎的な項目の確認が促されている。章末で基礎的・基本的な語句や内容がまとめられている。
- ② 見開きの最後にある「探究」で、学習課題に関する問いを説明したり、調べ発表したりする活動を設けている。「見方・考え方」では、身近な話題や実生活の場面への活用につながる視点を取り上げ、考えをまとめる活動を設定している。章末の「学習のまとめ」では、学習内容を確認しながら資料や語句を用い、自分の考えを説明する活動が設定されている。
- ③ 「〇〇の入り口」のページでは、章の学習をする意義や章の問いと各節ごとの問いが提示されている。本文に関連する内容をより詳しく学習できる発展的内容として「学習を深めよう」のコラムが提示されている。「学習のまとめ」では語句の確認など家庭で復習できる課題が設定されている。「資料活用」では、家庭で自主的に調べることができるような課題が設定されている。
- ④ 章末の特設ページ「これから」や「TRY」において、学習した個別のテーマや発展的な内容をもとに、学習者が検討したり学習者同士で話し合ったりする活動が設定されている。またディベートやシミュレーション、ゲームなどの活動を紹介する「やってみよう」のコーナーが設定されている。
- ⑤ 文化に8ページを当て、伝統文化として、年中行事、能や歌舞伎、相撲や柔道、茶道や書道などが記されている。伝統文化に誇りをもち、未来につなげていくこと、世界の人々に伝えていくこと、新しい文化をつくることが記されている。領土問題に4ページを当て、北方領土と竹島、尖閣諸島についてそれぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組が記載されている。国際社会での日本の役割については2ページを当て、外交、ODAなどについて掲載されている。

現代社会 28 ページ、憲法 40 ページ、政治 40 ページ、経済 54 ページ、国際 36 ページ、終章 7 ページとなっている。巻頭に、「なぜ公民を学ぶのか」が2ページにまとめられている。使い方のガイダンスは4ページで、「主体的で対話的な深い学びを支える教科書の構成」と「この教科書の学習のしかた」について記されている。見開きは、学習を始めるきっかけとなる導入資料→学習内容の見通しが持てる「課題」→本文→学習課題に対応し、学習内容を振り返る「確認」・「探求」の流れで構成されている。目次のところに学習に役立つ情報を見ることができる二次元コードが掲載されている。巻末には用語解説が5ページ掲載されている。

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

6

教科 社会

種目 地図

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい社会 地図	1-3	A4	176
46	帝国	中学校社会科地図	1-3	A4	198

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新編 新しい社会 地図
(1) 内容の特徴・表現	<p>① 地図の活用に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 地理的事象についての知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① P4の「この地図帳の地図記号」では、地図にかかわる記号が分類して示され、索引の使い方や土地の高さの表し方が説明されている。P5・6の「この地図の活用方法」では一般図と数量や割合の分布、人や物の動きなどのテーマ図の特徴が示され、具体例を挙げながら活用方法が説明されている。</p> <p>② P32の「ドバイの変化」やP90の「大阪湾岸の土地利用の変化」等は、変化や違いを写真で示している。地理的事象について、歴史的分野や公民的分野、SDGsとの関連を示したり、関連する別の資料の掲載場所を記載している。</p> <p>③ ミツバチのキャラクターから地図を読み取る課題が取り上げられている。その解答例が二次元コードで示され、閲覧できるように構成されている。学習内容に関連するWebページや、白地図等が閲覧できるリンク集へアクセスできるように構成されている。</p> <p>④ P28やP56等では、取り上げた国や地域が、どのように他の国や地域とつながっているのか、貿易や宗教、移民等の観点から地図や資料で示されている。また、P48やP60等では、国や地域の変化の様子や、環境や人権に関する課題が、写真を用いて示され、事象間の関係の読み取りや、説明する活動が促される構成となっている。</p> <p>⑤ P171・172の「日本の周辺」では、竹島、尖閣諸島、北方領土について、日本の領土であることが、写真とともに示されている。竹島、北方領土は、日本固有の領土であるが、それぞれ韓国とロシアに不法占拠され、抗議をする一方、外交交渉を続けていること、尖閣諸島は、国際社会から日本の領土と認められていることが説明されている。</p>
(2) 構成・配列及び分量 使用上の便宜等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>世界、日本、統計、索引で構成されている。すべての生徒の色覚特性に適合するデザイン及びユニバーサルデザインフォントが採用されている。巻末には、統計5ページ、索引9ページが配分されているが、それぞれに二次元コードが掲載されており、「世界と日本の統計」、「さくいんの引き方」が紹介されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	46 帝国 中学校社会科地図
(1) 内容の特徴・表現	<p>① 地図の活用に関する基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 地理的事象についての知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力や、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① P4の「この地図帳の凡例」では、地図にかかわる記号が分類して示されている。P5～7の「地図帳の使い方」では、縮尺や地図の要素など地図を読み取る際の基礎的な知識と、索引や統計等が説明されている。また、地図の種類や、数量・割合の分布・人や物の動き等の資料図の読み取り方、地図の活用方法が具体例を示しながら説明されている。</p> <p>② P57では、東ヨーロッパからドイツ等に外国人が移動してくる理由について説明する課題が示されている。P93・94では、瀬戸内海周辺の歴史で古くから交通が盛んな理由が、地図と年表を組み合わせで掲載されている。</p> <p>③ 「地図で発見！」コーナーを156か所設定し、基礎的な内容から発展的な内容まで様々な問題で構成されている。学習内容を確認したり深めたりすることができるよう二次元コードが示され、関連した資料や動画サイトなどのコンテンツやリンク集を利用できるように構成されている。</p> <p>④ P8～14では「地図で考える持続可能な社会」としてSDGsが取り上げられている。17のゴールと関係が深いページやそれらの主な内容が、それぞれの課題について写真や地図、説明文と合わせて示されている。「主題学習」として考える視点が示され、地図を活用しながら情報を収集し、判断、表現する活動が促される構成となっている。</p> <p>⑤ P32やP40等では、日本とそれぞれの国や地域のつながりについて「日本との結びつき」が、資料や写真で示されている。また、P92やP142等では、火山災害や津波といった日本各地の防災への備えに関する地図が示され、それぞれの対策や被害・復興について考えることができる課題や資料が取り上げられている。</p>
(2) 構成・配列及び分量 使用上の便宜等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>使い方・資料、世界、日本、統計、索引で構成されている。特別支援教育やユニバーサルデザインの観点から色覚特性に配慮した色づかいやユニバーサルデザインフォントが採用されている。巻末には、統計9ページ、索引11ページが配分されているが、統計については、国や地域の詳しい数値や情報を確かめることができるリンク集へアクセスするQRコードが掲載されている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

7

教科 数学

種目 数学

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい数学1 ~MATH CONNECT 数学のつながり~	1	B5	324
		新編 新しい数学2 ~MATH CONNECT 数学のつながり~	2	B5	260
		新編 新しい数学3 ~MATH CONNECT 数学のつながり~	3	B5	292
4	大日本	数学の世界1年	1	B5	324
		数学の世界2年	2	B5	250
		数学の世界3年	3	B5	302
11	学図	中学校 数学1	1	B5	328
		中学校 数学2	2	B5	270
		中学校 数学3	3	B5	330
17	教出	中学数学1	1	B5	346
		中学数学2	2	B5	278
		中学数学3	3	B5	314
61	啓林館	未来へひろがる数学1	1	B5	302
		未来へひろがる数学2	2	B5	238
		未来へひろがる数学3	3	B5	282
104	数研	これからの 数学1	1	B5	320
		これからの 数学2	2	B5	270
		これからの 数学3	3	B5	328
116	日文	中学数学1	1	B5	326
		中学数学2	2	B5	266
		中学数学3	3	B5	304

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい数学
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 数量や図形等についての基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 数量や図形等について習得した知識及び技能を活用し、事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし解決する過程で、自ら考え判断し、表現する力を育成するために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習を促すために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・課題解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① まとまった「問」が与えられたときは、「クイックチェック」で類題を解き直し、確認できるようデジタルコンテンツが設定されている。「基本の問題」には、学び直しができるように各節で関連する問題の見出し、ページ、問題番号が示されている。</p> <p>② 「深い学び」のコーナーでは、問題をつかみ、見通しをたてて問題を解決していくように、ページの側注に問題解決の過程が段階的に示されている。「学びをふり返ろう」では、見方や考え方の視点が示されている。</p> <p>③ 「問」の側注には、巻末の「補充の問題」の関連ページと問題番号が示されており、各章の学習内容を繰り返し練習するための問題が掲載されている。「章の問題B」には、「活用の問題」が発展的な学習として取り上げられている。</p> <p>④ 巻末の「数学の自由研究」には、他教科やSDGs、日常生活と関連した問題が取り上げられており、探究的な活動内容が示されている。「MATH CONNECT」では、身近にある数学が紹介されている。</p> <p>⑤ 「数学のまど」や問題の挿絵に、水落遺跡の水時計や青海波等、日本古来の建築物や伝統模様が取り上げられている。また、伊能忠敬の業績が紹介されるとともに、他教科との関連からエッセイのだまし絵等が紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、図表、文字表記、レイアウト、その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>各節において、考えさせたり振り返らせたりしたい内容を示した上で、「Q」に関連する具体的な問題を取り上げる構成になっている。巻末の「学びのベース」には、学び直しができるように前学年までの関連する既習事項のまとめや問題が設けられている。</p>

項目	観 点 の 具 体	4 大日本 数学の世界
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 数量や図形等についての基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 数量や図形等について習得した知識及び技能を活用し、事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし解決する過程で、自ら考え判断し、表現する力を育成するために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習を促すために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・課題解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 「Q」の問題を補充し、繰り返し学習ができるように「プラスワン」の問題が記載されている。各節のまとめをするための「たしかめてみよう」には、既習事項を確認するための見出しとページ番号が示されている。</p> <p>② 各章の利用では、問題発見・問題解決の流れがページの側注に問題解決の過程が段階的に示されている。また、「活用・探究」では、対話形式で問題をつかみ、考えを整理するように構成されている。</p> <p>③ 巻末には、各章ごとに「補充問題」が掲載されており、発展的な学習が「総合問題」として示されている。また、各学年の学習の要点がまとめられた折込ページがあり、自主的に振り返るための小冊子を作れるよう構成されている。</p> <p>④ 「MATHFUL」では、他教科や日常生活と関連した読み物や高校数学につながる内容が紹介されている。巻末の「課題学習」では、数学を生かして考える問題が示されている。</p> <p>⑤ 写真やイラストに外国にルーツをもつ生徒が登場している。日本や世界の伝統ある模様について取り上げられている。また、小笹円形分水等現代生活に生かされている場面が、巻末資料やコラムの中で掲載されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、図表、文字表記、レイアウト、その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>各節で学習を始める手がかりとなる問題を「考えよう」で出題した上で、「めあて」を示し、「学習活動」へつながるよう構成されている。学習内容に関連する既習事項や雑学等が側注に示されている。各章末にある「振り返ろう」では、練習問題とともに、学習内容を振り返る視点が示されている。</p>

11 学図 中学校数学	17 教出 中学数学
<p>① 「どんなことがわかったかな」には、学習内容を生徒が確認できるポイントが示されている。「確かめよう」には関連する問題を扱ったページと問題番号や見出しの表記がある。数と式領域では、「計算力を高めよう」のページが設けられている。</p> <p>② 数学的活動「Question」では、問題を見つけ、予想し解決する流れが、ページの側注に問題解決の過程が段階的に示されている。各章の利用の問題では、対話形式で問題をつかみ、考えを整理するように示されている。</p> <p>③ 巻末に、補充的な問題を集めた「〇年の復習」、章末には、学びを振り返ることができるコーナーがあり、自己チェックするための観点が設けられている。「深めよう」「疑問を考えよう」には、発展的な問題が示されている。</p> <p>④ 各章の「深めよう」では、身近な事象から学習を深める問題が示されている。また、巻末の「さらなる数学へ」では、SDGsの17項目のうち、自分たちにできないことがないか調べて取り組む問題が示されている。</p> <p>⑤ 葛飾北斎の絵について記載され、海外での見方との共通点について取り上げられている。巻頭の「数学見つけた!!」には、日本や世界の伝統的な建築物が紹介されており、「数学の力」には、伝統的なものづくり等の内容が示されている。</p>	<p>① 基礎基本となる学習内容に対しては、「例」・「たしかめ」・「問」といった流れで構成されている。「問」の側注に、補充問題のページ番号と問題番号が掲載されている。「章の問題」には、基本的な問題の上に学習した知識及び技能が身に付いているかを問かける文言が記載されている。</p> <p>② 巻頭の「大切にしたい数学的な見方・考え方」では、問題解決の際に働かせる数学的な見方・考え方が4ページにわたってまとめられている。また、問題解決の過程で働かせたい見方・考え方が注釈として示されている。</p> <p>③ 巻末の「補充問題」には、各章の節ごとの基本的な問題が集められており、問題番号の下には、関連する学習内容を扱ったページ、問題番号等の情報が示されている。また、「実力アップ問題」として、発展的な問題も掲載されている。</p> <p>④ 「数学の広場」には、学習内容を深めたり、日常生活や他教科の学習に活用したりする問題が示されている。「数学しごと人」のコラムでは、数学に関わる職業が紹介されている。</p> <p>⑤ 日本の伝統模様である矢絣模様や葛飾北斎の富嶽三十六景が取り上げられ、黄金比に関連した海外の作品が紹介されている。和算や算額、さしがねやおおがね等の日本の伝統的文化を題材としたコラムが掲載されている。</p>
<p>各章の扉ページで問題発見し、その問題について考え、まとめ、次の問題を発見する数学的活動につなげる構成が示されており、そのことが教科書の使い方として巻頭のページで紹介されている。各学年の巻末には「プログラミングを体験してみよう」が掲載されている。</p>	<p>巻末にある「学習のまとめ」では、その章で学習した内容の要点や練習問題、次章と関連する既習事項が掲載されている。巻末の「学びマップ」には、これまでの学習内容と現学年の学習内容のつながりが示されており、既習事項の要点をまとめたページが設けられている。</p>

項目	観 点 の 具 体	61 啓林館 未来へひろがる数学
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 数量や図形等についての基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 数量や図形等について習得した知識及び技能を活用し、事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし解決する過程で、自ら考え判断し、表現する力を育成するために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習を促すために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・課題解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 例や問の側注に、基本となる考え方や誤答例が掲載されている。また、学習の定着に向けての補充問題が二次元コードで示されている。章末問題の「学びをたしかめよう」では、学習した内容が身に付いているかを問いかける文言と関連するページ番号が掲示されている。</p> <p>② 各章末には「〇〇の利用」が設けられている。その中で、「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」では、学んだことを表現して、理解を深めたり学びを広げたりする活動が紹介されている。</p> <p>③ 巻末「数学広場」の「力をつけよう」には、学習した内容の補充的な問題や発展的な問題が掲載され、入試問題にもチャレンジできる。「学びをいかそう」では、学んだ内容を、身の回り等で利用するための問題が取り上げられている。</p> <p>④ 大切な考え方を身に付けるために、「すでに学んだ形にする」や「条件をかえる」等の標識が示されている。新しい問題を見つけたり、問題を解決したりするときの手立てとして示されている。</p> <p>⑤ 日本の伝統的な模様である市松模様や麻の葉模様が紹介されている。タイヤの設計や宇宙開発において円周率が使われていることが取り上げられている。数学の偉人として、アルキメデスの業績について紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、図表、文字表記、レイアウト、その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>節のとびらでは、新しい学習課題の理解を深められる情報が二次元コードで紹介されている。章末問題の「学びを身につけよう」では、解答・考え方・解説動画等、学習内容に関連するデジタルコンテンツが二次元コードで示されている。章末に「〇章のあしあと」として、学習を振り返るための例文が示されている。</p>

104 数研 これからの数学	116 日文 中学数学
<p>① 確認問題では、既習事項の確認ができるようページ番号が記載されている。「問」に対して、補充・考察するためのコンテンツが二次元コードで掲載されている。章末には習熟度に応じた問題A・Bが掲載されている。</p> <p>② 問題解決の過程を、登場人物の対話で進む形式で繰り返し示されている。また、「見いだしたことから説明」や「方法・理由の説明」等の表現力の育成を意識した問題が設定されている。「考えよう」や「調べよう」等のコーナーでは、各章の内容に関連する話題や学んだ内容を深める活動が示されている。</p> <p>③ 巻末の「チャレンジ編」には、補充的な問題を集めた「力をつけよう」と、応用問題を集めた「力をのばそう」のコーナーが設けられている。「数学旅行」では、生徒の自主的な取組を促す発展的な学習の題材が掲載されている。</p> <p>④ 「学んだことを活用しよう」では、身の回りの事象を各章の内容を活用して解く問題が取り上げられている。「Link 探究」には、学んだ内容を活用して問題を解決する課題があり、ワークシートや考え方が提示されている。</p> <p>⑤ 教科書冒頭において、全国にある様々な建築物等が紹介されている。日本独自の数学である「和算」について記述されている。数学者であるピタゴラスやユークリッドの功績等が取り上げられている。</p>	<p>① 「例」や「問」の側注には、基本となる考え方や大切な見方・考え方が示されている。問題場面の状況把握や試行錯誤のためのデジタルコンテンツが二次元コードで掲載されている。</p> <p>② 「学び合おう」の節では、自分で考え、話し合いを通して問題解決ができるように、段階的に示されている。「学び合おう」の内容と対応した巻末の「対話シート」には、問題解決に必要な情報の整理を促す内容と振り返りの記入欄が設けられている。</p> <p>③ 巻末の「補充問題」には、各章の基本的な問題が掲載されており、側注には章内で扱ったページと関連する例題や問題の番号が示されている。各章末の「とりくんでみよう」には、自主的な学習を促す発展的な問題が掲載されている。</p> <p>④ 巻末には、SDGs と関連のある数学や、数学を仕事に生かしている人の話等が紹介されている。「数学研究室」では、他教科と関連した内容や興味が高まる課題が取り上げられている。</p> <p>⑤ 伊能忠敬の測量やユークリッドの幾何学の業績について紹介されており、現代数学とのつながりについて解説されている。また、記号「∞」の起源について記述されており、ドイツの数学者ライプニッツの功績が紹介されている。</p>
<p>巻末には、「中学〇年のまとめ」があり、これまでに学習してきた内容を系統立ててまとめたページが設けられている。「学びの自己評価」として、自身の学習状況を確認するページが設けられている。扉ページの前に「〇章の学習の前に」があり、前学年までの既習事項で、次章の学習に関連する内容がまとめられている。</p>	<p>各章で学習する内容を、見開き2ページでまとまるよう構成されている。各章の扉ページの前に「次章を学ぶ前に」があり、前学年までの既習事項で、次章の学習に関連する内容がまとめられており、基本的な確認問題が取り上げられている。各学年の巻末には「プログラミングを体験してみよう」が掲載されている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

8

教科 理科

種目 理科

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい科学 1	1	AB	262
		新編 新しい科学 2	2	AB	314
		新編 新しい科学 3	3	AB	326
4	大日本	理科の世界 1	1	B5	294
		理科の世界 2	2	B5	318
		理科の世界 3	3	B5	374
11	学図	中学校 科学1	1	AB	264
		中学校 科学2	2	AB	304
		中学校 科学3	3	AB	304
17	教出	自然の探究 中学理科1	1	AB変型	291
		自然の探究 中学理科2	2	AB変型	315
		自然の探究 中学理科3	3	AB変型	347
61	啓林館	未来へひろがるサイエンス1	1	AB	300
		未来へひろがるサイエンス2	2	AB	324
		未来へひろがるサイエンス3	3	AB	356

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい科学
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 自然の事物・現象についての理解や、観察、実験に関する技能の習得等、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈する過程で、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の科学技術の実情や、科学の発展に尽くした人の業績等、また他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 計算が必要な章では、練習問題用の二次元コードが掲載されている。章末にページの半分を使用した章末問題があり、語句を中心に復習できるよう設定されている。単元末には「学習内容の整理」「確かめ問題」が設定されている。巻末に理科室のきまりや薬品の取り扱い、実験操作などがまとめて紹介されている。</p> <p>② 各節冒頭の「問題発見」では身近な現象が課題として示されている。観察・実験の流れがステップを踏んで順に示され、結果の見方や考察のポイントが記載されている。「流れに沿ってじっくり探究」では、「問題発見」「課題」「仮説」「構想」「実験」「分析解釈」「検討改善」の流れが示されている。</p> <p>③ 各章・各単元で、「Before&After」という学習前後の考えをまとめる課題が用意されている。各単元末には、学習内容を日常生活と結び付けられる事例や職業等が紹介されている。実験手順や思考の場面では、補足のデジタルコンテンツに直接的にアクセスできるよう、各項目付近に二次元コードが掲載されている。</p> <p>④ 実験や観察の前後で、考えを比較する仕掛け(課題に対する結論を自分でまとめる)が記述されている。各章末の「学びをいかして考えよう」では、既習事項を活用して課題を解決する問いが設定されている。</p> <p>⑤ 各単元末の「社会につながる科学」では、各専門家のインタビューが掲載されている。「私たちのSDGs」では、既習事項と関連した私たちにできる活動の紹介がされている。全学年で、持続可能な社会のために必要な「防災特集」が取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量、使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>巻頭には探究の流れが示されている。巻頭の「科学の本だな」では、関連した書籍が紹介されている。単元冒頭には既習事項と学習内容が示されている。各節は「問題発見」や「課題」で始まり、「結論」や「活用」で終わる流れで、自分の言葉でまとめるよう設定されている。冊子左下に、各節内での流れが端的に示されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	4 大日本 理科の世界
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 自然の事物・現象についての理解や、観察、実験に関する技能の習得等、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈する過程で、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の科学技術の実情や、科学の発展に尽くした人の業績等、また他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 章末に「章末問題」があり、基本的な知識に関する問いが設定されている。単元末に「まとめ」「単元末問題」が設定されている。巻末には、算数や数学とのかかわりも示されている。第1学年は、巻頭に「理科室の使い方」が示されており、全学年共通して実験の「基本操作」が巻末にまとめて紹介されている。</p> <p>② 観察・実験では、「着眼点」からの流れや「結果の整理」「結果から考えよう」の手順、「結果の例」が示されている。第1学年では、巻末の「探究の進め方」で、探究の流れが具体例を挙げながら6ページにわたって紹介されている。「やってみよう」では課題解決につながる、補助的な観察・実験が紹介されている。</p> <p>③ 章末問題の各問題と、関連が深い教科書のページ番号が示されている。単元末に探究活動として、学習内容を活用して自ら課題を見つけて探究できる課題が示されている。巻末に、自由研究の事例が各学年で8つずつ紹介されており、詳しい研究方法も二次元コードで紹介されている。理科にかかわる全国の校外施設が多く紹介されている。</p> <p>④ 探究にかかわる力を段階的に育成できるような仕掛けが示されている。第1学年は課題を見つけること、第2学年は計画を立てること、結果から考えること、第3学年は振り返ることにそれぞれ重点が置かれ、探究活動の中でそれがわかるように表記されている。</p> <p>⑤ 「科学のあしあと」では、科学の歴史や科学者などに関わる資料が掲載されている。第3学年の巻末ではノーベル賞受賞者(日本人)や、「科学のあゆみ」として日本の歴史に沿った各分野の科学技術が紹介され、各学年の冒頭には、獣医、技術者、宇宙飛行士からのメッセージが示されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>巻頭の「学習の進め方」では、探究の過程が示されている。各単元の冒頭に、既習事項と学習内容が見開きで示されている。また各章の冒頭にも「思い出そう」があり、章に関係する既習事項が紹介されている。各節には学習の課題が示され、それを解決していく流れとなっている。二次元コードは実験操作に重点を置いて掲載されている。</p>

11 学図 中学校科学	17 教出 自然の探究 中学理科
<p>① 単元末に、「学習のまとめ」が2ページあり、用語を覚えること、基本問題に慣れることを目標に設定されている。計算問題は、巻末にまとめて掲載されている。また、実験手順はそれぞれのページに写真で大きく掲載されており、実験の基本操作は、巻末の補充資料にまとめて紹介されている。</p> <p>② 観察・実験では、身近な現象からの「気づき」「課題」「仮説」「計画」「方法」「結果」「考察」と一連の流れが記述されている。観察・実験ごとに、探究を深めるための「理路整然」が記述され、具体的な思考のヒントが示されている。巻末に「思考をさらに深める」特集が設定されている。</p> <p>③ 各単元で、学習前後の考えをまとめる課題が用意されている。1回の授業での課題を把握できるよう、「この時間の課題」が細かく掲載されている。補足のデジタルコンテンツにアクセスできるよう、すべてのページの上端に二次元コードが掲載されている。巻末に「読解力強化問題」等の主体的に取り組める学習内容が掲載されている。</p> <p>④ 第1学年の巻頭では、文章の書き方等の基本的な事柄が明記されている。思考方法としての表や図の使い方も示されている。探究の過程では、「気づき」から「計画」までが、写真や図を用いて具体的に示され、問題解決への流れがはっきり見えるよう記載されている。</p> <p>⑤ 第3学年では、科学技術の発展を、科学の発見と技術の実現や発展を明確にしなが、表にまとめている。各学年に「SDGsを意識した脱炭素社会へ」の特集があり、学年に応じた資料が示されている。また、各章ごとに関係するSDGsのロゴが記載されている。</p>	<p>① 「課題」に対する「結論」がはっきり記述されている。章末の「要点をチェック」で、学習内容の定着問題が設定されている。単元末には「要点と重要用語の整理」と「基本問題」が設定されている。巻末には「学年末総合問題」があり、また実験の基本操作や試薬一覧、理科で使う計算などがまとめて紹介されている。</p> <p>② 観察・実験では、疑問から課題を設定したり、課題から仮説や計画を立てたりする手順が示され、考察のポイントも明記されている。実験結果が、節の課題に対する結論として改めてまとめられている。各学年で、基礎の「レポートの書き方」が構造的に示されている。</p> <p>③ 各章で、学習前後の考えをまとめる課題が用意されている。巻末に各単元における自由研究が紹介されている。ページ下部に、補足のデジタルコンテンツに直接的にアクセスできるよう、実験器具の使い方等の二次元コードがまとめて掲載されている。実験によっては、実験結果をさらに活用、発展させていく活動である「研究」が考察の後に示されている。</p> <p>④ 「活用しよう」では、既習事項を活用して課題を解決する問いが設定されている。各単元に1つ設定されている「疑問から探究してみよう」の実験では、疑問を見つけるところから仮説・計画までの流れが示され、問題解決の道筋が見えるよう記載されている。</p> <p>⑤ 「ハローサイエンス」では、元素「ニホニウム」(第2学年)などの科学の話題が示されている。第3学年の巻末資料では、ノーベル賞を受賞した日本人が紹介され、「探究の歴史」では、様々な科学的発見を年表形式でまとめ近代科学の歴史について、取り上げられている。</p>
<p>巻頭の「なぜ理科を学ぶの？」で、理科を学ぶ意義が示されている。各単元冒頭の「Can-Do List」と「ふり返ろう・つながよう」では、その単元での目標と既習事項が示されている。各節の「探究」では、探究のどの段階であるかが、ページ左端に色を付けて示されている。巻末の補充資料では、実験操作や補足の図・写真が示されている。</p>	<p>巻頭にいつでも確認できるような形で「探究の進め方」が示されている。各単元の冒頭には学習の流れが明示され、見通しをもたせる記載がされている。各章の冒頭に「これまでの学習」があり、学習のつながりが明記されている。各節は、「課題」で始まり「結論」でまとめる形で、構成されている。重要語句が赤太字で示されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	61 啓林館 未来へひろがるサイエンス
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 自然の事物・現象についての理解や、観察、実験に関する技能の習得等、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈する過程で、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の科学技術の実情や、科学の発展に尽くした人の業績等、また他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 計算が必要な単元では、練習問題用の二次元コードが掲載されている。章末の「Review」、単元末の「学習のまとめ」「力だめし」で、学習内容の定着問題が設定されている。巻末には「学年末総合問題」や「算数・数学との関連」がまとめて紹介されている。実験の基本操作は、物質の単元前にまとめて紹介されている。</p> <p>② 観察・実験では、各単元に1つ、「探Q実験」が設定されている。「探Q実験」では「課題」「仮説」「計画」「結果」「考察」の流れが示され、観察・実験後に「探究のふり返し」が設定されている。「考えてみよう」「発表してみよう」「Action」などの発表、活用場面が設定されている。</p> <p>③ 各単元で、学習前後の考えをまとめる課題が用意されている。実験手順や思考の場面では、補足のデジタルコンテンツに直接的にアクセスできるよう、各項目付近に二次元コードが掲載されている。各単元末の「みんなで探Qクラブ」では、学習内容を活用して探究できる課題が設定されている。巻末に各単元における自由研究が紹介されている。</p> <p>④ 巻頭には、ICTの活用方法が見開きで掲載されており、課題発見、実験の記録、振り返りなどでの活用が紹介されている。巻末の資料で、思考ツールの活用や、考えを深めるために話し合う方法がまとめて紹介されている。</p> <p>⑤ 科学コラムの「〇〇ラボ」では、科学に関する様々な話題が紹介されている。第3学年では、サイエンス資料として、歴代の日本人ノーベル賞受賞者年表や近代科学・技術の発展について、取り上げられている。巻末に、SDGsについて解説するページが設けられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>3学年通して、単元が生命、地球、物質、エネルギーの順で構成されている。探究の流れは巻頭と巻末の両方に示されている。各章の冒頭に「つながる学び」があり、既習事項が示されている。各節には学習の課題が示されている。巻末には、切り離して使用可能な、探究の流れに沿った形で学習を進められる探Qシートが付けられている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

9

教科 音楽

種目 音楽（一般）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
17	教出	中学音楽 Ⅰ 音楽のおくりもの	Ⅰ	AB変型	92
		中学音楽 2・3上 音楽のおくりもの	2・3	AB変型	92
		中学音楽 2・3下 音楽のおくりもの		AB変型	92
27	教芸	中学生の音楽 Ⅰ	Ⅰ	AB変型	98
		中学生の音楽 2・3上	2・3	AB変型	98
		中学生の音楽 2・3下		AB変型	98

教科(種目)名(音楽・一般)

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学音楽 音楽のおくりもの
(1) 内容の特徴・表現	<p>① 音楽に対する感性を働かせ、音楽表現を生み出したり音楽のよさを見いだしたりする等、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 音楽の知識及び技能を活用し、表したい音楽表現について考えたり、音楽を味わって聴いたりするために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることができるような音楽科の特質に応じた言語能力や、情報活用能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 学習活動を通して知識及び技能の定着が図られるよう、「Active!」として、進んで学び合うための活動例が示されている。巻末には、「楽典」が各学年の学習内容に応じて掲載されている。</p> <p>② 教材ごとに学習活動が示されている。楽曲を比較して、表現の工夫を考えて歌ったり、音楽を味わいながら鑑賞したりすることができるよう、「比べてみよう」のマークが比較するページ数とともに示されている。</p> <p>③ 見たり聴いたり、記録したりすることで、自主的・補充的または発展的な学習を行うことができるよう、ウェブサイト「まなびリンク」が設定されている。</p> <p>④ 「音のスケッチ」では、言葉の抑揚や日本の音階の特徴を捉え、交流しながら創作できるような活動例が示されている。コンピュータを活用した音楽活動や、音楽に関する知的財産権である著作権について取り上げられている。</p> <p>⑤ 我が国の自然や四季の美しさを感じ取れる楽曲として設定されている歌唱共通教材が「日本の歌 みんなの歌」として示されている。日本と他国の音楽を比較しながら、それぞれの特徴について学習できるよう構成されている。唱歌の表現を楽しむ「唱歌でポン」が示されている。</p>
(2) 構成・配列及び分量、使用上の便宜等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>歌唱、創作、鑑賞の各分野、領域ごとにまとめて配置されており、後半は合唱曲等が配置されている。巻末には、学年の内容に応じた学習資料が折込みページで掲載されている。</p>

教科（種目）名（音楽・一般）

項目	観 点 の 具 体	27 教芸 中学生の音楽
(1) 内容の特徴・表現	<p>① 音楽に対する感性を働かせ、音楽表現を生み出したり音楽のよさを見いだしたりする等、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 音楽の知識及び技能を活用し、表したい音楽表現について考えたり、音楽を味わって聴いたりするために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることができるような音楽科の特質に応じた言語能力や、情報活用能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 「学びのコンパス」では、主体的・対話的な活動を通して、知識及び技能の定着が図られるような学習活動が取り上げられている。巻末には、「音楽の約束」や「音楽を形づくっている要素」が各学年の学習内容に応じて掲載されている。</p> <p>② 各教材名の横には、音楽的な見方・考え方を働かせながら学習するためのポイントが例示されている。教材ごとに学習活動や「音楽を形づくっている要素」が示されている。</p> <p>③ 自主的・補充的または発展的な学習を行うことができるよう、楽曲の解説や演奏の様子、旋律や伴奏等を確認できる二次元コードが示されている。</p> <p>④ 授業で学んだことを振り返りながら、薦めたい1曲のよさを紹介する活動が「音楽の学びを振り返ろう」として示されている。「ルールを守って音楽を楽しもう！」と題し、著作権について取り上げられている。</p> <p>⑤ 我が国の自然や四季の美しさを感じ取れる楽曲として設定されている歌唱共通教材が「心の歌」として示されている。声や楽器の特徴からよさや美しさが学習できるよう、アジアや世界の諸民族の音楽が取り上げられている。「日本音楽入門」では日本の音楽の歴史や特徴が示されている。</p>
(2) 構成・配列及び分量 使用上の便宜等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>歌唱、創作、鑑賞の各分野、領域ごとにまとめて配置されており、後半は合唱曲等が配置されている。裏表紙には、「郷土の祭りや芸能」について説明と写真が掲載されている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

10

教科 音楽

種目 音楽（器楽合奏）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
17	教出	中学器楽 音楽のおくりもの	1-3	AB変型	106
27	教芸	中学生の器楽	1-3	AB変型	106

教科（種目）名（音楽・器楽合奏）

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学器楽 音楽のおくりもの
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 音楽に対する感性を働かせ、音楽表現を生み出したり音楽のよさを見いだしたりする等、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 音楽の知識及び技能を活用し、表したい音楽表現について考えたり、音楽を味わって聴いたりするために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることができるような音楽科の特質に応じた言語能力や、情報活用能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 各楽器の開始ページに学習の導入として、演奏者のコメントや楽器の歴史、演奏される場面などが示されている。リコーダーの学習において、基礎・基本の定着を図り、段階的に技能が身に付けられるよう、短い練習曲が示されている。</p> <p>② 「音のスケッチ」では、楽器を使った創作が示されており、知識及び技能を活用し、表現の工夫を考えながら演奏する学習活動が取り上げられている。</p> <p>③ 楽器ごとに技能の習得を確認するための「まとめの曲」が設定されている。解説や奏法、模範演奏などを確認できるようなウェブサイト「まなびリンク」が設定されている。</p> <p>④ 「表現の仕方を調べてみよう」では、吹く楽器と弾く楽器について音の出し方から楽器の特徴について整理し、共通点や相違点について協議する活動が示されている。</p> <p>⑤ 「発展」では、和楽器を含めた世界の「吹く楽器」「弾く楽器」について、楽器の背景にある文化や伝統、生活様式などについて調べる学習活動が取り上げられており、SDGsとの関連も示されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓、楽曲の順で掲載されている。巻末には、リコーダーの運指表とギターのコード表が折込みページに掲載されており、ギターのコード表は写真も併せて掲載されている。</p>

教科（種目）名（音楽・器楽合奏）

項目	観 点 の 具 体	27 教芸 中学生の器楽
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 音楽に対する感性を働かせ、音楽表現を生み出したり音楽のよさを見いだしたりする等、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 音楽の知識及び技能を活用し、表したい音楽表現について考えたり、音楽を味わって聴いたりするために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることができるような音楽科の特質に応じた言語能力や、情報活用能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 各楽器の開始ページの「演奏を聴こう」「楽器を知ろう」では、学習の導入として楽器の歴史や演奏される場面などが示されている。「吹いてみよう」「弾いてみよう」「打ってみよう」では、基礎・基本の定着を図ることができるように短い練習曲が示されている。</p> <p>② 「My Melody」では、箏で演奏できるよう、日本の音階の雰囲気を生かし、音のつながり方を工夫して旋律を創作する学習活動が取り上げられている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組んだり、補充的・発展的な学習につなげたりすることができるよう、奏法の動画や伴奏の音源が二次元コードで示されている。</p> <p>④ 「アンサンブルセミナー」では、曲を聴いたり演奏したりして、音楽の特徴を確かめ、交流しながら表現の工夫を考えられる内容が示されている。</p> <p>⑤ 「伝統の枠を超えて活躍する和楽器」「楽しもう！和楽器の音楽」「郷土の祭りや芸能」では、様々なジャンルの音楽での取組や、学校内外における音楽活動とのつながりが紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器、楽曲の順で掲載されている。巻末には、リコーダーの運指表とギターのコード表がそれぞれ見開きで掲載されている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

||

教科 美術

種目 美術

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
9	開隆堂	美術Ⅰ	Ⅰ	A4変型	72
		美術2・3	2・3	A4変型	128
38	光村	美術Ⅰ	Ⅰ	A4変型	68
		美術Ⅰ資料		A4	34
		美術2・3	2・3	A4変型	106
116	日文	美術Ⅰ 美術との出会い	Ⅰ	A4変型	74
		美術2・3上 学びの実感と深まり	2・3	A4変型	64
		美術2・3下 学びの探求と未来		A4変型	60

項目	観 点 の 具 体	9 開隆堂 美術
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 造形的な創造活動の基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 造形的な視点についての実感的な理解をもとに、発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりするために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 美術科の特質に応じた言語活動や情報活用に関する活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力を育成することができる内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の美術作品や伝統・文化などについて理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 学習指導要領の三つの柱に基づいて各題材の「目標」が明示されるとともに、授業場面で主に身に付けたい力が小見出しとして示されている。また、技法や用具の解説は関連する題材のページに示すとともに、色彩と光などの基礎的・基本的な事項が巻末の「学びの資料」にまとめられている。</p> <p>② 教師と生徒のキャラクターがそれぞれの視点で話すセリフによって、学習のポイントや学習の進め方のヒントが示されている。鑑賞中心のページでは、視点を変えて作品を鑑賞できるように、見開きの紙面構成を使って、作品全体を大きく掲載したり、一部を原寸大で掲載したりしている。</p> <p>③ 美術文化と身近なものを関連付けて捉えられるように、マンガやアニメーション、絵本など、生徒にとって親しみのある作品が掲載されている。また、美術2・3の巻末にSDGsに関する造形的な取組や作品が掲載されているほか、題材との関連を示すマークが各ページに付けられている。</p> <p>④ 各題材の導入動画「はじめに」や技法・用具の解説動画、授業で活用できるワークシート等、様々なデジタルコンテンツが準備されており、題材ごとにまとめられ、接続のための二次元コードが紙面左上に掲載されている。学習内容に関する用語が「美術の用語」として解説されている。</p> <p>⑤ 江戸時代の屏風や浮世絵が、当時の人々の生活や文化と関連付けて紹介されている。美術2・3の巻末では、日本と諸外国の作品が年表に沿って掲載されており、造形的な特徴について比較鑑賞できるように示されている。また、震災をきっかけに描かれた現代の作品が取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、図版、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>「美術1」、「美術2・3」の二冊で構成されている。表紙は掲載作品に合わせて光沢や凹凸のある加工がされており、巻頭の図画工作とのつながり、美術の学習の意義や内容の紹介などとともに、授業開きなどの教材として活用できるよう示されている。各題材は4ページを基本に、表現と鑑賞の関連を図った授業展開に沿って紙面が構成されている。また、作品には、指示を明確にするための図版番号が付けられている。</p>

教科(種目)名(美術)

項目	観 点 の 具 体	38 光村 美術
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 造形的な創造活動の基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 造形的な視点についての実感的な理解をもとに、発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりするために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 美術科の特質に応じた言語活動や情報活用に関する活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力を育成することができる内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の美術作品や伝統・文化などについて理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 学習指導要領の三つの柱に基づいて各題材の「学習の目標」が明示されるとともに、形や色彩、材料などの〔共通事項〕の視点で作品を鑑賞できるように「POINT」が示されている。また、三年間を通じて活用する別冊「資料」が付属しており、技法や材料の使い方、色などについて掲載されている。</p> <p>② 発想や構想の手だてとして、マッピングやベン図など、言葉や図を使って考えを広げたり比べたりする方法が紹介されている。「みんなの工夫」では、制作過程における生徒の思いや考え、制作の様子の写真、アイデアスケッチなどが、発想や構想の参考例として複数紹介されている。</p> <p>③ 道徳科や他教科との関連を考えながら学習が進められるように、道徳科の内容項目や、教科のつながりに関するコラムが掲載されている。また、美術 2・3 の巻頭にSDGsに関する造形的な取組や作品が掲載されているほか、題材との関わりの深い目標の番号が、紙面の下部に示されている。</p> <p>④ 文字や図形が書き込める鑑賞作品の画像、生徒のインタビュー動画、技法・用具の解説動画など、様々なデジタルコンテンツが準備されており、接続のための二次元コードが掲載されている。また、美術1の巻末には、鑑賞で使われる語彙が「美術鑑賞を広げる言葉」として示されている。</p> <p>⑤ 浮世絵や屏風など日本の作品を五つのキーワードで分類し、和紙のような質感の用紙を使ったり、原寸大で掲載したりしている。また、ピカソ作「ゲルニカ」を取り上げ、制作の様子や当時のゲルニカの町の写真、ピカソのその他の作品などが、見開きの紙面構成を使って掲載されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、図版、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>「美術1」、「美術2・3」、別冊「資料」、の三冊で構成されており、各巻のページの右上部に、別冊や巻末の「学びを支える資料」との関連が示されている。表紙には西洋と日本の絵画作品が、巻頭・巻末には詩と写真作品が掲載されており、授業開きや関連する学習での教材として活用できるよう示されている。各題材は見開き2ページを基本に、表現と鑑賞の関連を図った授業展開に沿って、紙面が構成されている。</p>

116 日文 美術

- ① 学習指導要領の三つの柱に基づいて各題材の「学びの目標」が明示されるとともに、形や色彩、材料などの〔共通事項〕の視点で作品を鑑賞できるように「造形的な視点」が示されている。また、各巻の巻末には、色彩や技法、用具の取り扱いなどが「学びを支える資料」としてまとめられている。
- ② 各題材では、表現と鑑賞の関連を図った学習が進められるように、学習の導入の問いが「鑑賞の入り口」として、発想や構想の手だてや技能の方法が「表現のヒント」として示されている。また、美術1の巻末には、「発想・構想の手立て」がアーティストの事例とともに紹介されている。
- ③ 道徳科との関連を考えながら学習が進められるように、道徳科の内容項目が示されている。SDGsに関連した活動や作品を取り上げ、SDGsの目標の番号やゴールの文が示されている。また、「短時間でつくる」では、弾力的な指導計画の設定のために、短時間題材の例が紹介されている。
- ④ 各題材の導入動画「学びのはじめに」、作家や作品の解説動画など、様々なデジタルコンテンツが準備されており、接続のための二次元コードやICT機器の活用場面を示すマークが掲載されている。また、紙面下部「もっと知りたい」には、ウェブ検索の手掛かりとなる用語が提示されている。
- ⑤ 浮世絵や、震災をきっかけに描かれた現代の作品、ピカソ作「ゲルニカ」などを取り上げ、見開きの紙面構成を使って、作品全体や一部の原寸大図版を掲載している。二点の屏風作品は、ページを折って立てることで屏風本来の置き方で鑑賞できるよう、紙の両面に印刷されている。

「美術1」、「美術2・3上」、「美術2・3下」の三冊で構成されている。各巻の表紙は、作品が裏表紙にかけて掲載されており、巻頭の副題の言葉、学習の意義や内容などの紹介とともに、授業開きなどの教材として活用できるよう示されている。各題材は見開き2ページを基本に、表現と鑑賞の関連を図った授業展開に沿って紙面が構成されている。また、作品には、指示を明確にするための図版番号が付けられている。

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

12

教科 保健体育

種目 保健体育

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい保健体育	1-3	A B	198
4	大日本	中学校保健体育	1-3	B5変型	196
50	大修館	最新 中学校保健体育	1-3	A B	206
224	学研	新・中学保健体育	1-3	A B	206

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい保健体育
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 各種の運動及び個人生活における健康・安全についての基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 健康・安全の大切さに気付く等、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭で自主的な学習が促されるために教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質や能力を身に付けさせるために、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのようになされているか。</p>	<p>① 日常生活や今まで学習したことなどを基に、学習題材をつかめるよう、各単元の冒頭「見つける」で事例が提示されている。資料などを基に、思考、判断、表現を大切にしながら、知識・技能を習得できるよう⑦で問いが設定されている。資料を読み取るポイントが示されている。</p> <p>② 「活用する」では、習得した知識・技能を活用して、話し合ったり説明したりするコーナーが設けられている。学習したことを自分の生活に当てはめて考え、実践的な力につながるよう「広げる」が設けられている。各ページにはインターネットを活用した学習ができる「D」マークが設けられている。</p> <p>③ 巻末スキルブックでは健康や安全に関するスキルをまとめたページがあり、実習の手順や方法などが掲載されている。発展した学習ができる「発展」マークがあり、「共に生きる」として災害時の「避難所生活とボランティア」や「地域のきずな」などが取り上げられている。</p> <p>④ 1時間の主な流れが「見つける」「課題の解決」「広げる」で示され、学習の進め方が明記されている。各章の「学習のまとめ」に、「日常生活に生かそう」が設けられ、もっと調べたいことや、これからの日常生活に生かしていきたいことを書くよう設定されている。</p> <p>⑤ 巻頭では「私たちの未来とSDGs」が取り上げられ、「安全な水を確保するための支援」として、日本の水道技術を伝える取組が紹介されている。体育編3章では、文化としてのスポーツの意義について、スポーツが国際親善や世界平和に果たす役割が読み物資料や写真で取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>保健編が前半、体育編が後半になるよう配列され、保健編は全44項目、体育編は全9項目で構成されている。各章の扉ページには「保健体育の職業」として章の内容に関連のある職業が紹介されている。巻末には「巻末スキルブック」があり、健康や安全に関する20のスキルが取り上げられている。</p>

項目	観 点 の 具 体	4 大日本 中学校保健体育
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 各種の運動及び個人生活における健康・安全についての基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 健康・安全の大切さに気付く等、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭で自主的な学習が促されるために教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質や能力を身に付けさせるために、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのようになされているか。</p>	<p>① 左ページに本文で学習したい知識を示し、右ページは資料として本文の内容を理解したり活動に取り組んだりする参考内容を示している。「学習のまとめ」では学習した知識を整理することができるよう、重要な言葉の解説が示されている。</p> <p>② 各ページに「話し合ってみよう」のコーナーがあり、資料を参考に自分の考えをまとめ、意見交換ができるよう設定されている。章末の「学びを活かそう」では与えられたテーマから、学習したことや資料を基に、意見を記述しまとめる欄が設けられている。</p> <p>③ 「やってみよう」では、資料を基に自分の健康や生活を振り返り、小単元最後の「活用して深めよう」につなげる流れになっている。また、家や地域で取り組みたい活動など、学習した内容を実生活の場面で活用する情報を示す「家」、「地域」マークが示されている。</p> <p>④ 各学習の導入に、「つかもう」が設定されており、身の回りのことや自分の友達の経験など、身近な疑問から興味をもち学習に取り組めるよう課題が示されている。「活用して深めよう」では、自分の課題を考えたり、自分ができることを書いたりすることができるような活動が設定されている。</p> <p>⑤ 巻頭や体育編3章の「文化としてのスポーツの意義」では、視覚資料を使い、スポーツの文化的な役割、スポーツの平和的な役割について取り上げられている。また、「オリンピック・パラリンピックエピソード」として日本人選手の話が取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>体育編が前半、保健編が後半になるよう配列され、体育編は全9項目、保健編は全40項目で構成されている。右ページに本文、左ページに資料が分けて示されている。ページ下に「ミニ知識」欄があり、学習内容に関連した情報が示されている。</p>

50 大修館 最新 中学校保健体育	224 学研 新・中学保健体育
<p>① 導入として、「課題をつかむ」が設定されており、これまでの経験や学習を生かして○×を付けたり、経験を想起させたりするような問いが記載されている。「学習のまとめ」や「章のまとめ」では、学習で得た知識を問題形式で再確認できるよう構成されている。</p> <p>② 「学習のまとめ」には生活や身の回りの事象に照らし合わせて話し合う内容があり、自分の考えをまとめて表現する場面が設けられている。「章のまとめ」では「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に関する問題が取り上げられ、自分の考えを記述する欄が設けられている。</p> <p>③ 「Q&A健康相談コーナー」や「実習コーナー」で自らの身体や健康に関心をもち活動する内容が示されている。特集資料では学習内容を深めた発展的なコーナーが設定され、気象・地震災害から命を守る行動や、「性」についての固定的な考え方に気づかせる資料などが掲載されている。</p> <p>④ 本文で学んだことに関連した様々な情報をまとめた「特集資料」が設けられており、グループでの話し合いが設定されている。「コラム」や「事例」では、本文に関連した読み物、「保健の窓」や「体育の窓」では、保健と体育を関連させ自分ならどうするかを考える内容が紹介されている。</p> <p>⑤ 巻頭では「国際的なスポーツ大会」として、オリンピックやパラリンピックなどの写真が取り上げられている。体育編2章の運動やスポーツの効果・学び方・安全では、「柔道MINDプロジェクト」が紹介されている。体育編3章の2、国際的なスポーツ大会の意義と役割では「世界平和と国際親善」が資料と写真で紹介されている。</p>	<p>① 「ウォームアップ」で課題の発見を、「エクササイズ」で課題の解決について考える流れで構成されている。「学びを生かす」では学びの活用により、学習内容の定着を図る問いが設定されている。「章のまとめ」では、「確かめよう」でその章で学習した知識を確かめられる問題が設けられている。</p> <p>② 「実習」や「もっと広げる深める」では学んだ知識を活用し、実践する学習が設定されている。「エクササイズ」では、学習した知識や情報をもとに、考えたり、調べたり、話し合ったりする活動が設定されている。「章のまとめ」の「生活への活用」では、学んだことを実生活にどのように活用するかについて記述する欄が設けられている。</p> <p>③ 「探究しようよ!」というコーナーが章末に設けられ、学んだ内容からさらに発展的な内容が示されている。保健編第2章では、スポーツの技術を身に付け、力を発揮するために、メンタルリハーサルやスポーツ活動ログ(記録)を作る方法などが紹介されている。</p> <p>④ 「学びを生かす」では、授業の導入時に見つけた課題の解決方法や、学習を通して理解したことを活用し、まとめたり伝えたりする活動が設けられている。関連する学習内容へのガイドは「関連」、参考になるウェブサイトへのガイドは「リンク」のマークが付けられている。</p> <p>⑤ 巻頭では「行って、見て、学ぼう」として、中富記念くすり博物館や、高知よさこい情報交流館などが紹介されている。体育編3章の「文化としてのスポーツ」では、「日本とオリンピック・パラリンピック」として日本とオリンピック・パラリンピックの関係について取り上げられている。</p>
<p>体育編が前半、保健編が後半になるよう配列され、体育編は全9項目、保健編は全48項目で構成されている。「実習」の内容も1つの項目として取り上げられている。キーワードが太字で示されており、「資料」が実線、「課題をつかむ」、「学習のまとめ」が点線で囲まれている。</p>	<p>体育編が前半、保健編が後半になるよう配列され、体育編は全9項目、保健編は全36項目で構成されている。巻頭に保健体育に関する施設などが写真で紹介されている。各章にページ数が色分けされていて、見出しやキーワードは太字で表記されている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

13

教科 技術・家庭

種目 技術・家庭（技術分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	1-3	A B	298
6	教図	新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する	1-3	A 4変型	262
		新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する スキルアシスト		A 4変型	42
9	開隆堂	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	1-3	A B	314

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 材料と加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術について、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 問題解決的な学習の過程で、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、題材や資料等がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習内容がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 各項の冒頭でキーワードがあげられている。「技術のとびら」では基礎的な知識や技能についてまとめられている。写真を使い、一つ一つの工程が説明されている「TECH Lab」が示されている。キャラクターを利用して、導入の問いに対する具体的な方向性が示されている。</p> <p>② 各編の問題解決の流れでは解決策の構想のページが設定されている。問題解決を扱う章末には問題解決例が複数掲載されており、問題発見・課題設定のテーマとともに具体例が示されている。課題設定の手立てとして思考ツールが紹介されている。</p> <p>③ 各編末の「未来のTechnology」では技術の見方・考え方を働かせた発展的な学習のワークシートが提示されている。「技術の工夫」欄にはそのページの内容と関連する話題が取り上げられている。</p> <p>④ 「レッツスタート」や、「話し合ってみよう」の欄で話し合う活動が取り上げられている。問題解決例の末尾には「もっと問題解決」や「新たな問題発見」が提示されている。D編で68ページにわたって「情報の技術」が設定されている。</p> <p>⑤ 巻末の「学んだことを社会に生かす」では、技術者がどのような思いで技術と向き合っているかを記載している。また、主に各編末で取り上げられている「技術の匠」欄では、技術者の言葉とともに、問題提起がされている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容の構成・配列、全体の分量及びその配分や表記、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>各編ともに、「技術の原理・法則や技術の仕組みを理解する」「ものづくりなどを通して、技術による問題解決を行う」「技術を評価し、選択、管理・運用、応用について考える」の順で、1編から3編は3章、4編は4章で構成されている。「TECH Lab」「問題解決例」ページのツメに見出しが印字されている。オリジナルキャラクターを使用している。</p>

項目	観 点 の 具 体	6 教 図 新 技 術 ・ 家 庭 技 術 分 野 明日を創造する
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 材料と加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術について、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 問題解決的な学習の過程で、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、題材や資料等がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができる活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習内容がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 各項目の冒頭に「めあて」と、関連する「キーワード」が示されている。「みつける」「学ぶ」「振り返る」という活動の促しがマークを使って強調して示されている。別冊のスキルアシストでは、実習の基本技能について写真を用いて説明されている。</p> <p>② 各編の2章の冒頭で、問題解決に取り組む流れが大きな4コマ漫画で示されている。また、各編で「プチ問題解決」をした後、身近な場面の問題解決をするつくりとなっている。巻末には各編の問題解決場面で利用できる設計・計画シートが付属している。</p> <p>③ 各編末の「やってみよう」では技術の見方・考え方を働かせた発展的な学習のワークシートが提示されている。また、「考えてみよう」「もっと知ろう」では発展的な学習についての題材や資料が取り上げられている。</p> <p>④ 各編の問題解決的な学習の後の「やってみよう」では、問題解決について作成したレポートをもとに発表する活動が取り上げられている。D編で74ページにわたって「情報の技術」が設定されている。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化にかかわる内容が、「スゴ技」「技ビット」などの欄に「伝統文化」マークを用いて示されている。また、AからD編2章末から3章およびE編では、SDGsのマークとともに関連する内容が記載されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容の構成・配列、全体の分量及びその配分や表記、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>A編からD編は、「技術を見つめよう」「技術をいかそう」「未来をつくろう」の順で、A編からC編は3章、D編は4章で構成されている。「夢をかなえる技術」としてE編を設定している。ポイントとなる単語は青ゴシックで表記されている。色味が強い。二次元コードとともにコンテンツの内容が明記されている。</p>

<p>9 開隆堂 技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて</p>
<p>① 各項目の冒頭では、生活の身近な場面における問いが学習課題として示されている。右ページの右肩に工具や部品等の名称が入った写真が掲載されている。第1編では問題解決の流れ及び例を学習した後、製作過程での技能を学習するという作りになっている。</p> <p>② 随所に、技術の見方・考え方との関連が示され、色分けをして整理されている。各編の問題解決の流れの項目およびすべての実習例で問題発見から評価・改善までの流れを提示しており、大枠で表記され、改善例が示されている。生徒目線の手書きの構想図が示されている。</p> <p>③ 「豆知識」や「参考」欄にはそのページの内容と関連する話題が取り上げられている。「やってみよう」では自主的な学習や発展的な学習を促している。各編1章末では家庭学習につながるワークシートが示されている。</p> <p>④ 各編3章の章末で、これからの技術について、可能性と課題にふれ、その活用について情報交換をする活動が取り上げられている。D編で74ページにわたって「情報の技術」が設定されている。</p> <p>⑤ 各編末の「interview」では、技術者への複数の質問とその回答が示されている。「既存の技術を調べようシート」及び「問題解決の振り返りシート」では、SDGs とのかかわりについて考えるワークシートとなっている。</p>
<p>各編ともに、「生活や社会の技術を読み取る」「身の回りの問題に目を向け、自分なりに問題を解決するための課題を考え、技術によって課題に取り組む」「学習したことを社会に生かす」の順で、4編3章で構成されている。実習例の充実に伴い、A編が80ページにわたって設定されている。左ページ上部に見出しが示されている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

14

教科 技術・家庭

種目 技術・家庭（家庭分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	1-3	A B	298
6	教図	新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する	1-3	A4変型	296
9	開隆堂	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ	1-3	A B	314

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 問題解決的な学習の過程で、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 学習の定着の確認ができるように各編の終わりに「学習のまとめ」が設けられている。調理の基礎技能や衣服の補修、洗濯と保管、製作の基礎技能について、何度でも確認できる「いつも確かめよう」のページが設けられ、技能ごとにまとめられている。</p> <p>② 問題解決的な学習の過程で、生徒が自ら進めることができるようガイダンスに問題を解決する道筋や、自ら考え、判断し、表現する力を育むための思考ツールの活用例が掲載されている。</p> <p>③ 生徒が学習内容に取り組むきっかけとなるよう「考えてみよう」や「調べてみよう」が設定され、学習内容に関連した動画視聴や、Webサイトの閲覧ができる「Dマーク」が掲載されている。</p> <p>④ 「生活の課題と実践」では、「課題の決め方」や言語活動の充実を図る「まとめと発表の仕方」が示されている。また、生活の場面での学びの活用が具体的にイメージしやすいように、様々な実践例が掲載されている。</p> <p>⑤ 日本の伝統・文化や異文化理解が深まるように日本の地域や海外の衣食住についての写真や「プロに聞く!」が紹介されている。国際理解や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように、具体的な事例が掲載されている。日本や海外の話題が「せいかつメモ」で紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>内容は、6編で構成され、1編は、ガイダンスと学習指導要領の内容Aの一部、2から5編は、学習指導要領の内容B、C、A順で配列されている。2から5編は、「導入」、「基本ページ」、「学習のまとめ」の順で構成されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	6 教 図 新 技 術 ・ 家 庭 家 庭 分 野 暮 ら し を 創 造 す る
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 問題解決的な学習の過程で、知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 生活の中での自分自身の自立度を確認できるように、各編のはじめに「自立度チェック」が設けられ、内容ごとにめあてに対する自分の学びを書かせる欄が「ふり返る」に設定されている。学習の定着の確認ができるように各章の終わりに「学習のふり返り」が設けられている。</p> <p>② 知識及び技能を活用して考える、具体的な活動が「考えてみよう」に示されている。話し合いや発表の視点を示した「話し合ってみよう」や「発表してみよう」が設定されている。</p> <p>③ 主体的に学習内容に取り組むことができるように「調べてみよう」や「やってみよう」が設けられている。学習をさらに深めるための資料は、「資料」、「参考」のマークで示されている。</p> <p>④ 生活の場面の中での学びのきっかけになるように学習に関連した中学生のイラストと会話が「見つめる」の中に掲載されている。章末に学びを生かした課題例や課題設定の例が掲載されている。</p> <p>⑤ 日本や世界の伝統と文化について理解を深めるために、巻頭に「年中行事と私たちのくらしのつながり」や「世界の衣食住」で写真が取り上げられている。また、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるような具体的な事例が取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>学習指導要領の内容A、B、Cと同様に配列されており、A、B、C編に分かれ、10章で構成されている。各章は、「導入」、「やってみよう」、「学びを生かそう」、「章末のまとめ」の順で構成されており、右上に編ごとのインデックスタブを用いている。</p>

<p>9 開隆堂 技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ</p>
<p>① 学習内容の定着を図るために、終末部分に自分の言葉を書き込む「学習のまとめ」が設定されている。調理の実際において、科学的根拠に基づいた知識・技能の習得が図れるように「調理方法 Q&A」や、被服の技能の定着を図るために、「製作の基礎・基本を知ろう」のページが設けられている。</p> <p>② 知識及び技能を活用して考える、具体的な問いが「考えてみよう」に設定されている。対話的な学びができるように、「話し合ってみよう」や「発表しよう」が設けられている。</p> <p>③ 生徒が自分事として学習内容に取り組むきっかけとなるように、「取り組み」では、実際の中学生の取組が紹介されている。学習に関連した情報が得られるように「豆知識」の欄が設けられている。</p> <p>④ 各章で身近なことから考えられる課題や問いが設定されている。「生活の課題と実践」では、具体的な実践例が生徒の実際の記述やレポート、写真とともに掲載されている。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深めるために、様々な写真が掲載されている。他国を理解し、尊重することができるように、「世界に視野を広げて」が設けられている。様々な国が環境に配慮していることが分かるように、Cのページの右上に様々な国の環境マークが掲載されている。</p>
<p>学習指導要領の内容A、B、Cと同様の配列になっている。Aは7章、Bは食生活、衣生活、住生活に分かれ、それぞれ6章、4章、5章、Cは4章で構成されている。生徒が興味関心をもちやすく見やすいように実物大の食品や手形などの写真が掲載されている。</p>

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

15

教科 外国語

種目 英語

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	NEW HORIZON English Course 1	1	A4	170
		NEW HORIZON English Course 2	2	A4	158
		NEW HORIZON English Course 3	3	A4	158
9	開隆堂	Sunshine English Course 1	1	A4	182
		Sunshine English Course 2	2	A4	166
		Sunshine English Course 3	3	A4	166
15	三省堂	NEW CROWN English Series 1	1	A4	188
		NEW CROWN English Series 2	2	A4	172
		NEW CROWN English Series 3	3	A4	172
17	教出	ONE WORLD English Course 1	1	AB	182
		ONE WORLD English Course 2	2	AB	182
		ONE WORLD English Course 3	3	AB	182
38	光村	Here We Go! ENGLISH COURSE 1	1	AB	194
		Here We Go! ENGLISH COURSE 2	2	AB	194
		Here We Go! ENGLISH COURSE 3	3	AB	194
61	啓林館	BLUE SKY English Course 1	1	A4	166
		BLUE SKY English Course 2	2	A4	170
		BLUE SKY English Course 3	3	A4	154

項目	観 点 の 具 体	2 東書 NEW HORIZON English Course
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 英語で表現し伝え合うことに向けて、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、英語の知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、及び現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 第1学年では、「Enjoy Communication」に小学校での復習が掲載されている。第1学年の Stage1 までは「Enjoy Listening」、それ以降は「Preview」で学習する表現を想像させる。扉では題材とユニットのゴールを確認し、各パートは、「Key Sentences」で新出文法、「Practice」と「Activity」で、その使い方の練習と自己表現活動が設定されている。</p> <p>② 「Unit Activity」では、自分の考えや意見を表現する活動が設定されている。「Stage Activity」では、カナダの生徒達が知りたい情報を動画で確認し、それに対して表現する活動が設定されている。また「Real Life English」では、グラフの活用、ニュース、路線図、レビューサイトなどの実用的な場面が題材として取り上げられている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるよう、パートごとに二次元コードが掲載され、「学び方コーナー」では学習のコツなどが紹介されている。「Grammar for Communication」には文構造のまとめと、問題が掲載されている。全学年で洋楽とその曲に関する情報や発展的読み物が掲載されている。</p> <p>④ 災害、ユニバーサルデザイン、絶滅危惧種、エシカルファッションなど現代社会に直結する内容が掲載されている。「Unit Activity」では、調査結果の発表やポスター作成など、探究し、自己表現する活動が設定されている。「Learning ... in English」では他教科を英語で学ぶ内容が取り上げられている。</p> <p>⑤ 第1学年では、他国の地理や文化に親しむための「コラム」や「ダイバーシティメモ」が設けられている。第2・3学年では、食の多様性や世界遺産、日本のポップカルチャーなどが紹介されている。国際協力について考える題材も取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>本課数は、学年順にユニット0を含み12、8、7である。巻末には、「Unit Activity」に対応した表現・資料集や帯活動用ページ、発音の仕方・フォニックスの一覧表などが掲載されている。第1学年には、切り離して活用する語順カードがある。デジタル教科書には、読み上げ、書き込み、拡大、スクリーンショットなどの機能がついている。書き込みの表示・非表示の切り替えができる。単元導入や文法解説の動画や、語句クイズや思考ツール、ワークシートがある。</p>

項目	観 点 の 具 体	9 開隆堂 Sunshine English Course
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 英語で表現し伝え合うことに向けて、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、英語の知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、及び現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 「Scenes」で新出文法を学習し、「Listen」と「Speak & Write」で繰り返し練習する活動が設定されている。各パートは、「Q & A」で本文の内容理解と「Today's Expression」で文法を確認し、「Small Talk」で身近な話題等についてやり取りする活動が設定されている。「Review & Retell」では、本文内容の要点を捉えて再現する活動が取り上げられている。</p> <p>② 「Our Project」が3年間を通して設定されている。「Our Project」までに段階的に資質・能力を育成するために、プログラムごとに「Step for Our Project」が設けられている。またプログラムでの学習内容を活用して表現する「Action」は目的や場面、状況などを踏まえて、4技能5領域を統合した活動が設定されている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるよう、パートごとに二次元コードが掲載されている。復習ができるように、プログラムの終わりには「英語早わかり」で文構造がまとめられている。ページの端に目標の達成を確認する欄が掲載されている。巻末には発展的読み物が掲載されている。</p> <p>④ ユニバーサルデザイン、環境問題、SDGsなど現代社会に直結する内容が掲載されている。「Our Project」ではCM作成、ディスカッション、企業への提案などの題材を取り上げ、探究し、自己表現する活動が取り入れられている。「Step for Our Project」では学習の基盤となる力がKey Pointsとして解説されている。</p> <p>⑤ 写真資料とともに、様々な国の地理や文化が紹介されている。「広島」や「エルトゥールル号」、「中村哲医師」などの平和や国際問題、国際協力に関する読み物教材が掲載されている。日本食や弁当、祭りなど、日本文化に関する題材が取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>本課数は、学年順に10、8、7である。目次にプログラムの題材に関連するSDGsのアイコンがある。巻末には「Small Talk 表現集」と「Small Talk の流れ」などが掲載されている。第1学年には、切り離して活用する「アクションカード」がある。デジタル教科書には、読み上げ、書き込み、拡大、タイマーなどの機能がついている。本文や単語以外にも日本語の文章を含め、朗読機能がある。題材に関連する動画や文法解説動画などの掲載や、語句の確認・練習機能がある。</p>

15 三省堂 NEW CROWN English Series	17 教出 ONE WORLD English Course
<p>① 扉で、レッスンのゴールと学習する表現の使用場面を確認する。Part1 と Part2 の「Small Talk」では身近な話題などを通して既習内容と題材をつなげている。Scene1 と Scene2 では、「Check」で新出文法を学習し、「Exercise」の「Listen」「Talk」「Speak」で練習と短い文脈の自己表現、「Listen & Read」で本文の理解の確認と自己表現が設定されている。</p> <p>② レッスンごとに、目的や場面、状況などが明確な「Goal Activity」が設定されている。技能統合型の「Project」では、将来の夢、観光マップ、旅行プラン、CMなどが題材として取り上げられている。「Take Action!」では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」の領域で、ニュースや電車の乗換案内など実用的な場面が題材として取り上げられている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるよう、パートごとに二次元コードが掲載されている。「For Self-Study」では学習のコツなどが紹介されている。レッスンごとに「Language Focus」があり、各自で授業の振り返りや復習ができるよう設定されている。巻末には発展的読み物が掲載されている。</p> <p>④ 職業観、環境問題、災害、人権問題など現代社会に直結する内容が掲載されている。「Think about Yourself」ではそのセクションに関して、自分の意見を問う問題が掲載されている。身近な環境問題と解決策をレポートにまとめたり、身の回りの問題の解決策を話し合ったりする活動が取り入れられている。</p> <p>⑤ 全学年に、他国の文化に触れることができる題材が取り入れられている。その際、地域や特徴が異なる国が取り上げられている。また「日本発見の旅」「落語」「折り鶴と平和」「マンガやアニメ」など、日本の名所や歴史、伝統文化やポップカルチャーなどについて考える単元も設定されている。</p>	<p>① 「Key Sentence(s)」で新出文法を学習し、「Tool Kit」と「Let's Listen」で繰り返し練習を行い、「Think & Try」で短い文脈の自己表現活動、「Read & Try」で本文の内容理解と自己表現活動をする。「Activities Plus」では複数単元ごとに学習した表現を用いたやり取りの練習、「Useful Expressions」では日常場面でのやり取りが設定されている。</p> <p>② 「Project」は、直前のレッスンで学習した題材を中心に、製品紹介、オリジナルの標識の考案と発表、日本文化の紹介、ディベートなどが設定されている。レッスンごとに設定されている「Task」では、本文の内容理解に合わせ、その内容に関連した、目的や場面、状況などのある自己表現活動が設定されている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるよう、パートごとに二次元コードが掲載されている。レッスンごとに「Grammar」で文構造がまとめられている。「Tips for …」では4技能5領域の学習のコツが示されている。巻末には発展的読み物の「Further Reading」が掲載されている。</p> <p>④ 食品ロス、ユニバーサルデザイン、職業観、福祉、環境問題など現代社会に直結する内容が掲載されている。「Project」では、「課題解決に向けた取組」や「魅力的な商品などの考案と発表」など、探究し、自己表現する活動が設定されている。また、マッピングや、フィッシュボーンなどの思考ツールが紹介されている。</p> <p>⑤ 全学年で、日本と他国の地理や文化に触れることのできる題材が取り上げられている。また「Project」の参考資料として、「海外で活躍する日本人」や「日本を象徴するものや文化」、「日本で訪れるべき場所(アイヌ文化に触れることのできる施設など)」が掲載されている。</p>
<p>本課数は学年順に9、8、8である。第1学年で本課の前に「Starter」で小学校での学習を復習する。巻末には、授業や復習で活用できる「Audio Scripts」「Tips for Small Talk」「Role-playsheet」などがある。デジタル教科書には、読み上げ、書き込み、拡大、スクリーンショット等の機能がついている。書き込みの表示・非表示の切り替えができる。題材に関連する動画や文法解説動画等の視聴や、英和辞典、発音チェック機能などがある。</p>	<p>本課数は学年順に9、9、7、である。第1学年では本課の前に「Springboard」で小学校の学習を復習する。目次にレッスンの題材に関連するSDGsのアイコンが示されている。巻末には、語形変化、「Think and Try」の活動例がまとめられている。デジタル教科書には、読み上げ、書き込み、拡大、タイマー等の機能がついている。単語のフラッシュカードやKey Sentencesの録音再生機能がある。思考ツールやワークシートの使用や「Let's Use」のやりとり例の視聴ができる。</p>

項目	観 点 の 具 体	38 光村 Here We Go! ENGLISH COURSE
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 英語で表現し伝え合うことに向けて、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、英語の知識及び技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、及び現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育むために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① Part 1～3では、本文の内容理解を通して新出文法を想像する。「Listen」「Speak」「Write」では、新出文法の練習や、短い文脈での自己表現活動が設定されている。そして、「基本文」で新出文法を確認する。「Story Retelling」では、本文内容の要点を絵とキーワードを用いて再現する活動が取り上げられている。</p> <p>② 各ユニットが3学年を貫くストーリーとなっており、その中の登場人物が英語を使う姿が、目的や場面、状況などに基づくやり取りのモデルとなっている。各ユニットの「Goal」や複数のユニットの後にある「You Can Do It!」では、目的や場面、状況が明確な技能統合型の自己表現活動が設定されている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるよう、パートごとに二次元コードが掲載されている。「Active Grammar」には文構造がまとめられている。本文の最後のせりふに対し自分の意見を書く「You' re the Writer」が掲載されている。学習のコツが分かる「英語の学び方ガイド」が紹介されている。</p> <p>④ 環境問題、AI、自然災害など現代社会に直結する内容が掲載されている。「You Can Do It!」では、誰もが楽しめるイベントの提案、意見の取りまとめなど、探究し、自己表現する活動が設定されている。巻末の「Thinking Tools」には考えを整理するためのコツとしてクラゲチャートやベン図、マッピングなどが紹介されている。</p> <p>⑤ 「World Tour」では、一度に数か国の情報に触れられるような内容になっている。登場人物が修学旅行で京都と広島を訪れる中で、日本文化や平和について取り上げられている。また「杉原千畝」「絵文字」や「アイヌ文化」などが、読み物教材として掲載されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>本課数は全学年8である。巻頭では英語の学び方や学習に関するQ&Aと、ICTの活用方法を示している。巻末には帯教材の「Let' s Talk」のTopicやステップアップの方法、学びを他の領域へつなげる方法がまとめられている。デジタル教科書には、読み上げ、書き込み、拡大、スクリーンショット、録音等の機能がついている。単元の扉では、ストーリーのピクチャーカードの並べ替えや導入の映像を視聴できる。デジタルノート機能で、思考ツールを使用できる。</p>

61 啓林館 BLUE SKY English Course

- ① 扉の「Listen」では、単元の場면을想像させる。Part 1～3では「Enjoy Chatting」で題材に関連したやり取りにより本文の内容を想像させ、「Target」で新出文法を学習し、「Listen」「Speak」「Write」でその使い方を繰り返し練習し、「Express Yourself」では短い文脈で自己表現する活動が設定されている。
- ② ユニットごとに、4技能5領域を統合的に扱う活動が設定されている。また、複数単元ごとに身に付けてきた力を活用するための「Project」が設定されており、第1学年では、主に自己紹介や思い出、第2学年では、日本文化の紹介や将来の夢、第3学年では、インタビューや自叙伝について話し合ったり、伝えたりする活動が設定されている。
- ③ 各自で学習が進められるよう、パートごとに二次元コードが掲載されている。各自で復習できるように「Focus on Form」では23項目の文法解説がある。「英語の学び方」では、英語学習のコツが示されている。その中の「英語を聞き取るコツ」として、音声変化の連結、脱落、同化を紹介している。
- ④ ユニバーサルデザイン、気候変動、防災など現代社会に直結する内容が掲載されている。気候変動への対応策、自然災害への対策、世界遺産の課題、動物との共存方法などについて考えることを通して、探究し、自己表現する活動が設定されている。本文の内容を補充する「Notes」や既習の基本文が学年ごとに掲載されている。
- ⑤ 第1学年では、他国の地理や文化に触れる単元が設定されている。第2学年では、一つのトピックをもとに、いくつかの国を比較しながら食文化や伝統文化などの題材が提示されている。第3学年では、国際協力の観点から、世界で活躍する日本人についての紹介がされている。

本課数は学年順に10、8、6である。扉では単元末の目標を「Input」「Output」の視点で示しており、単元の最後では、それを振り返る欄が掲載されている。第1学年では本課の前にLet's Startで小学校での学習を復習する。巻末にはListening Scriptがある。デジタル教科書には、読み上げ、書き込み、拡大、タイマー、ルビなどの機能がついている。導入のアニメーションや文法解説動画、Readの動画等の視聴やデジタルノート機能の使用ができる。

「令和7年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

16

教科 道徳

種目 道徳

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新編 新しい道徳 1	1	AB	202
		新編 新しい道徳 2	2	AB	210
		新編 新しい道徳 3	3	AB	210
17	教出	中学道徳 1 とびだそう未来へ	1	B5	209
		中学道徳 2 とびだそう未来へ	2	B5	201
		中学道徳 3 とびだそう未来へ	3	B5	201
38	光村	中学道徳 1 きみが いちばん ひかるとき	1	B5変型	191
		中学道徳 2 きみが いちばん ひかるとき	2	B5変型	199
		中学道徳 3 きみが いちばん ひかるとき	3	B5変型	199
116	日文	中学道徳 あすを生きる 1	1	B5	178
		中学道徳 あすを生きる 1 道徳ノート		B5	42
		中学道徳 あすを生きる 2	2	B5	186
		中学道徳 あすを生きる 2 道徳ノート		B5	42
		中学道徳 あすを生きる 3	3	B5	194
		中学道徳 あすを生きる 3 道徳ノート		B5	42
224	学研	新版 中学生の道徳 明日への扉 1	1	AB	190
		新版 中学生の道徳 明日への扉 2	2	AB	194
		新版 中学生の道徳 明日への扉 3	3	AB	198
232	あか図	中学生の道徳 1	1	B5	194
		中学生の道徳 2	2	B5	194
		中学生の道徳 3	3	B5	194
233	日科	道徳 中学校 1 生き方から学ぶ	1	AB	163
		道徳 中学校 2 生き方を見つめる	2	AB	167
		道徳 中学校 3 生き方を創造する	3	AB	171

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい道徳
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 道徳的価値の理解を図るために、発達段階を踏まえた内容の充実や創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>② 自分の経験や感じ方や考え方等、自己を見つめ広い視野から多面的・多角的に考えることができる教材がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭で自主的な学習が促されている教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むための言語活動や、情報モラル等の現代的な課題や、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等、多様な学習方法がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる内容をどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 題材の最初に主題、題材末に問いが示されている。発達段階を踏まえて、小学校時の自分の考えを振り返りつつ、現在の自分の考えと照らし合わせて学びの伸長を自覚できるように、小学校道徳でよく扱われる題材が付録に掲載されている。</p> <p>② 設問が、教材文について「考えよう」、自分について「見つめよう」、そのどちらかについてさらに考える「ぐっと深める」の3段階で構成されている。自分の考えや感じたことがメモできる欄として「つぶやき」が設けられている。話し合い活動やロールプレイングが随所に設定されており、その時の思いや考えは教科書に書き込めるよう付されている。</p> <p>③ 学んだことを深めたり広げたりできるように「Plus」(コラム欄)が設けられている。デジタルコンテンツが全教材に付されている。題材名の下に、活用できるデジタルコンテンツの一覧が二次元コードとともに示されている。</p> <p>④ 情報モラルに関する教材が、「道徳×情報モラル」として示されている。映像教材を活用した題材も多く取り上げられている。探究の対話を促すために、p4c(子どものための哲学)を取り入れた活動が設定されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、隅田川の花火と灯ろう流し、和食文化の継承、宮島彫りなどが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、世界の安全に生活できない子供、山岳民族カリンカ族の文化などを取り上げている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>年間35時間分の題材として、35題材と4付録題材が取り上げられている。全学年を通して「いじめのない世界へ」、「いのちを考える」というテーマで、題材を連続して掲載し、テーマについて1つのまとまりとして学習できるように設定されている。巻末で、各題材が6つのテーマに分類して示されている。全学年、気持ちを可視化する「心情円」が折り込み頁に付されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学道徳
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 道徳的価値の理解を図るために、発達段階を踏まえた内容の充実や創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>② 自分の経験や感じ方や考え方等、自己を見つめ広い視野から多面的・多角的に考えることができる教材がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭で自主的な学習が促されている教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むための言語活動や、情報モラル等の現代的な課題や、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等、多様な学習方法がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる内容をどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 題材を通して考える問いが題材名の下と題材末に示されている。発達段階を踏まえて、キャリア教育・社会参画をテーマとした題材が、第1学年次よりも第2・3学年次の方に多く配列され、重点的に取り上げられている。</p> <p>② 題材初めには考えさせたいテーマに沿った発問が設けられている。題材末は「学びの道しるべ」として3つの設問が示されている。表やグラフなどのツールで自分の考えを整理したり、みんなの考えを共有したりする学習者用端末活用が紹介されている。</p> <p>③ 最初に SDGs の目標を示し、その目標と道徳科の学習を関連付けて考えられるよう記載されている。題材について、さらに別の場面設定で考えを深められるように「ひろば」の頁が複数あり、自分の考えを書き込める欄が設けられている。デジタルコンテンツが全教材に付されている。</p> <p>④ 問題解決的な学習の題材や、道徳的行為に関する体験的な学習に関連した活動に取り組むことができる「やってみよう」の頁が設けられており、活動の流れや自分の考えを書く欄が示されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、福岡県「博多祇園山笠」、食をめぐる作文コンクール「すまんじゅう」などを取り上げている。国際理解や国際平和に関わる題材として、命のビザ杉原千畝、国連難民高等弁務官緒方貞子などを取り上げている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量 使用上の便宜等</p>	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>年間 35 時間分の題材として、30 題材と 5 補充教材が取り上げられている。全学年を通して「いじめをなくそう」、「つながり合って生きる」、「いのちをかかやかせろ」というテーマで、題材を連続して掲載し、テーマについて1つのまとまりとして学習できるように設定されている。各学年、グループで話し合ったことを記録する頁が示されている。</p>

38 光村 中学道徳	116 日文 中学道徳
<p>① 題材の最初に内容項目、題材末に主題と問いが示されている。発達段階を踏まえて、小学校のときに学んだことを学び直した今、どんなことを感じたり考えたりするかを問うために、小学校道徳でよく扱われる教材が付録に掲載されている。</p> <p>② 題材末に、学習のテーマが示されており、そのテーマに迫るための問いが二つ設けられている。さらに「見方を変えて」で別の立場や視点から考えるための問いが示されている。前時の学習を、別の観点や活動で考えていくことができる「まなびをプラス」の教材が複数設けられている。付録には自分の考えを広げたり整理したりできる思考ツールが紹介されている。</p> <p>③ 題材の最後は「つなげよう」の欄があり、授業で学んだことと日常生活等をつなげる問い等が設定されている。他教科との関わりは題材末に示されている。考えたり調べたりできる「まなびの準備」のページが設けられている。</p> <p>④ 巻末に、現代的な課題等との関わりを示した配列表が掲載されており、情報モラルを扱った題材も複数取り上げられている。対話しながら考えを深めていく楽しさを味わえるような取組を促す「やってみよう」という頁も設定されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、沖縄・自分の地域の宝、小豆島の木桶仕込みのしょうゆ造り・木桶作りなどが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、ルワンダ義肢工房設立、ガーナ共和国チョコレート工場建設など掲載されている。</p>	<p>① 題材の最初に主題、題材末に問いが示されている。発達段階を踏まえて、「よりよい社会を考える」というテーマの教材とコラムを組み合わせたユニットが、学年が上がるにつれて多く配列され、重点化されている。</p> <p>② 題材名とともにキーワードが示されている。題材末は題材の内容を踏まえた問い「考えてみよう」と、自分事として考えを深めるための問い「自分にプラスワン」の2問が設けられている。巻頭で道徳科での学び方を三つのステップで説明し、その後「ミニ教材で考えてみよう」として、具体的な例が付されている。</p> <p>③ 他教科や特別活動と関連付けられたコラム欄「視野を広げて」が複数設けられており、関連する教科名も示されている。教材に登場する人物から、あすへのメッセージとして中学生へ紹介されている。</p> <p>④ 道徳的な問題について考えたり、体験しながら学んだりするときの流れや学びを深めるヒントが示された「学びを深めよう」という頁が設けられている。同様に、学びを深めるヒントとしては、タブレット端末等で考えを整理するための思考ツールも複数紹介されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、ふろしきについての「包む」、岩手県津軽石中学校受け継がれる郷土芸能「法の脇鹿踊り」などを取り上げている。国際理解や国際平和に関わる題材として、マララ・ユスフザイのスピーチ、中村哲のアフガニスタン用水路建設プロジェクトなどを取り上げている。</p>
<p>年間 35 時間分の題材として、34 題材と 5 付録題材が取り上げられている。全学年を通して「いじめを許さない心について考える」、「よりよい社会をつくるためには？」などの 9 つのユニットテーマに沿って題材は連続して掲載されており、各題材の最終頁にて、他の教科との関わりについて示されている。巻頭では、「道徳の道案内」が示されており、巻末では、1 年間の学びを振り返ることができるよう毎時間のワークシートが示されている。</p>	<p>年間 35 時間分の題材として、35 題材が取り上げられている。全学年を通して「いじめと向き合う」、「よりよい社会を考える」というテーマで、題材を連続して掲載するユニットが設定されており、このユニットは繰り返し二つ以上掲載されている。学びの記録や振り返りのために、「道徳ノート」が付属している。</p>

項目	観 点 の 具 体	224 学研 中学生の道徳
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 道徳的価値の理解を図るために、発達段階を踏まえた内容の充実や創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>② 自分の経験や感じ方や考え方等、自己を見つめ広い視野から多面的・多角的に考えることができる教材がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、補充的な学習や発展的な学習、家庭で自主的な学習が促されている教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むための言語活動や、情報モラル等の現代的な課題や、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等、多様な学習方法がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国と郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる内容をどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 題材末に問いが示されている。多様な人と共に生きることについて考える題材では、人、集団や社会とのかかわりに関する題材が扱われている。複数の教材で連続して学び、考えを深める学習であるユニット学習が取り入れられている。</p> <p>② 題材末は「考えよう」として、2つの設問が設けられている。巻頭で、「考える方法」や「考えを深める4つのステップ」が紹介されている。題材名の下に内容のキーとなる言葉や文が書かれている。テーマに沿ってさらに考えられるように、「深めよう」のページが繰り返し設定されている。</p> <p>③ 題材に関連した資料が数多く掲載されている。複数の題材では、テーマについて話したり、演じたりする活動を通して、自分の日常について考える、「振り返ろう」や「生き方につなげよう」等が設けられている。</p> <p>④ インターネット等のSNSトラブルといった現代的な課題について考えたり、自分自身を振り返ったりすることができるように複数設けられている。問題解決的な学習に活用できる、生き方の選択肢を増やす関連情報が「クローズアップ」に取り上げられている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、白川郷「結」の精神、金閣寺の再建などが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、タイからの転校生、嘉納治五郎のオリンピック招致などを取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>年間 35 時間分の題材として、35 題材が取り上げられている。巻頭で、「いのち」、「多様性」、「伝統文化」などのテーマを取り上げ、示されている。全学年を通して「SDGs」、「多様性」、「キャリア」というテーマで、題材を連続して掲載し、ユニット学習として設定されている。巻末では、「未来への扉」として学びや未来への自分へのメッセージなどを記入できるよう付されている。</p>

232 あか図 中学生の道徳	233 日科 道徳中学校
<p>① 題材末に問いが示されている。発達段階を踏まえて、各学年の初めには、一つのテーマをもとに、現在の自分を見つめていろいろな視点で考えることを促す題材が取り上げられている。</p> <p>② 題材末に、教材のポイントとなる部分を挙げた上で、「自分を見つめて」考えるのか、「いろいろな見方」で考えるのかを提示して、設問がされている。さらに、「考えを深める」と「自分との対話」としての問いの合計三つの設問が示されている。話し合い活動やロールプレイングを通して考えを深める頁が設けられている。</p> <p>③ 教材で学習した内容を深めたり広げたりできるように、「Thinking」(コラム)の頁が設けられている。教材と関連する情報を見られるようにデジタルコンテンツが多く教材で付されている。</p> <p>④ 教材を読み、活動を通して、いろいろな視点から考えを深める「マイプラス」という頁が複数掲載されている。現代的な課題であるいじめ、共に生きる社会、情報モラルやキャリアを扱った題材も複数取り上げられている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、兵庫県の姫路城の大改修、福島県の伝統行事「相馬野馬追」などが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、南アフリカ共和国ネルソン・マンデラ、中学生作文「初めての海外旅行」などが取り上げられている。</p>	<p>① 題材名の上に内容項目の番号、題材末に問いが示されている。発達段階を踏まえて、自分自身と向き合い、他者及び集団や社会、自然や崇高のものとの関わりへと視野を広げるために、どの学年においても内容項目の番号順に題材が配列されている。</p> <p>② 題材末に「考えよう」「深めよう」の二つの設問があり、その下に意見を書くことができるメモ欄が設けられている。自分の考えを示したり、友達との意見交換がしやすくなったりすることができるように、「ウェルビーイングカード」の活用が紹介されている。</p> <p>③ 巻頭で道徳の授業の進め方を説明し、練習として「試してみよう」や「ウォーミングアップ」で短い題材を取り上げ、活動の流れが示されている。関連する資料を得るためのデジタルコンテンツが多く教材に付されている。</p> <p>④ 各内容項目のまとまりの最初には、題材の内容に沿った4コマ漫画が掲載されている。多様な感じ方や考え方ができるよう、グラフや著名人の言葉の引用が付けられている。各教材にはイラスト、写真などが複数掲載されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、備中松山藩山田方谷、世界中の人々の心をつかむ日本のアニメなどが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、農業改善に関する高校生二人の研究、トルコと日本の相互扶助などが掲載されている。</p>
<p>年間 35 時間分の題材として、35 題材が取り上げられている。全学年を通して「いじめを考える」、「情報モラル」、「キャリア」というテーマで、教材を連続して掲載し、テーマについて1つのまとまりとして学習できるように設定されている。さらに、第2学年からは「共に生きる社会」のテーマがこれに加えられている。巻頭で、各題材が10のテーマに分類して示されている。</p>	<p>年間 35 時間分の題材として、34 題材が取り上げられている。学年ごとに書名が「生き方から学ぶ」「生き方を見つめる」「生き方を創造する」と変わっている。巻頭で、各題材が8つのテーマに分類して示されている。「希望」「感謝」「多様性」「自分で決める」「自分らしさ」といったウェルビーイング(心地のよい状態)のために大切なことが書かれたウェルビーイングカード(26枚)とその使い方が示されている。</p>